

「文学のまち大津」ブランディング戦略 素案

令和8年9月

はじめに

市長挨拶を掲載

目 次

第1章 戦略策定にあたって	1
1 戦略策定の趣旨	1
2 戦略策定の背景	1
3 戦略策定の目的	2
4 戦略の位置づけ	2
5 戦略の期間	2
6 本戦略が対象とする「文学」の範囲	3
第2章 「文学のまち大津」を取り巻く現状と課題	4
1 大津市の文学資源	4
2 市民による文学・文化活動	7
3 市民アンケート結果	10
4 文学に関わる市民・団体による意見	17
5 戦略において解決すべき課題	25
第3章 目指す姿と基本方針	27
1 目指す姿	27
2 基本方針	28
第4章 施策の展開	29
1 施策体系図	29
2 各施策の展開	30
3 戦略の推進イメージ	33
第5章 戦略の推進にあたって	34
1 推進体制	34
2 進捗状況の確認	34
3 計画の見直し	34
参考資料	35
1 戦略策定の経過	35
2 「文学のまち大津」推進協議会委員名簿	36
3 大津市の文学資源リスト	37
4 用語解説	48

第1章 戦略策定にあたって

1 戦略策定の趣旨

大津には豊かな文学の土壌がありますが、その価値が市民に十分認識されているとは言えません。「資源はあるが、認識されていない」という現状が、本戦略策定の出発点です。

大津に受け継がれている豊かな文学資源や大津に息づく市民活動を改めて見つめ直し、市民の誇りとして次世代へつないでいくため、令和7年度に実施した基礎調査・市民アンケート・団体ヒアリング等を踏まえ、本戦略を策定します。

2 戦略策定の背景

大津市は、『万葉集』から『源氏物語』、百人一首、松尾芭蕉、そして現代作家へと続く、1300年以上にわたる文学文化を育んできたまちです。紫式部や蟬丸、松尾芭蕉など多くの文学者とゆかりを持ち、現在も今村翔吾氏や宮島未奈氏をはじめとする作家が活躍しています。

また、大津は古くから街道や水運によって人・物・情報が行き交う交通の要衝として発展し、多様な文化を受け入れながら独自の文化を培ってきました。琵琶湖の風景や石山寺、延暦寺、三井寺などの歴史文化資源は、多くの物語や作品を生み出す源泉となっています。

本市では、この豊かな歴史・風土を「縦糸」、市民一人ひとりの読書や創作、語り合いなどの「ことばの営み」を「横糸」と捉えます。両者が織り重なることで、人と人、地域と地域、過去と未来を結ぶ大津らしい文化が育まれます。

しかし、その豊かな文学資源や市民活動は十分に共有・発信されているとは言えません。今こそ、大津に息づく「ことばの営み」を見つめ直し、市民の誇りとして次世代へつないでいく取組が求められています。

3 戦略策定の目的

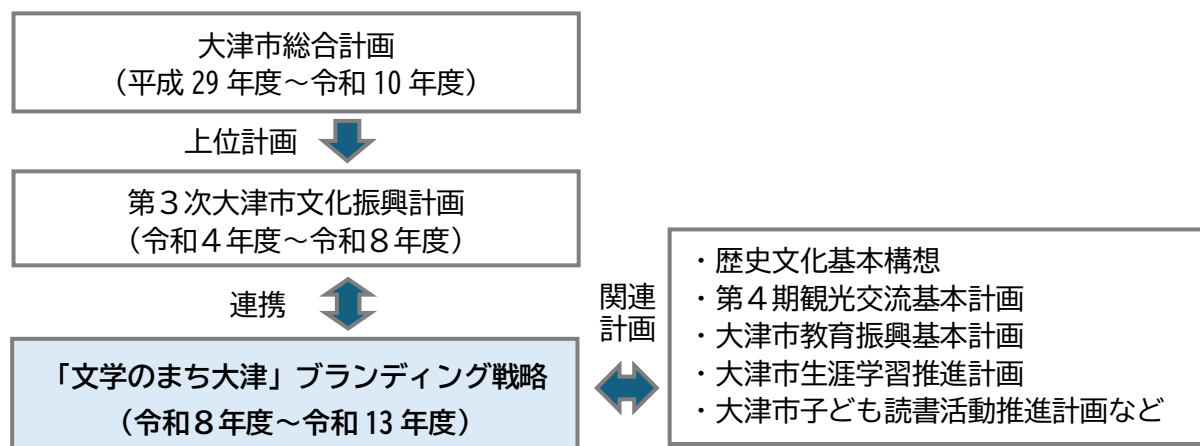
本戦略は、大津の文学資源とことばの営みを大切に、市民が誇りを持ち、生涯にわたって文学を楽しむまち「文学のまち大津」を実現することを目的とします。

あわせて、文学を切り口とした多様な主体との連携や情報発信を進めることで、まちの魅力向上と地域の活力創出につなげることを目指します。

4 戦略の位置づけ

本戦略は、大津市のまちづくりの基本方針である大津市総合計画を上位計画とし、その方向性に沿って策定するものです。

また、文化芸術、歴史文化、教育、観光などの分野別計画とも連携及び整合性を図りながら、文学を切り口に各分野をつなぐ役割を担います。



5 戦略の期間

本戦略の計画期間は、令和 8 年度（2026 年度）から令和 13 年度（2031 年度）までの 6 年間とし、「基盤形成」「共創・展開」「定着・発展」の 3 段階に分けて着実に取組を推進します。

令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度
第 1 段階 基盤形成		第 2 段階 共創・展開		第 3 段階 定着・発展	

6 本戦略が対象とする「文学」の範囲

本戦略における「文学」とは、難しいものや特別な人のためのものだけを指すのではありません。『万葉集』や『源氏物語』のように長い歴史の中で読み継がれてきた作品、松尾芭蕉の俳句や近代の小説、現代の漫画やエッセイ、さらには日々の暮らしの中で交わされる手紙やメッセージ、SNSでの発信なども含め、時代を問わず「文字」や「ことば」で思いを伝える営みすべてを、ここでは「文学」と捉えます。

また、文学は「読む人」「書く人」だけのものではありません。本を読むこと、文章を書いてみることに、自分の気持ちを伝えること、物語の舞台となった場所を歩くこと、地域に残る文学碑を見てその言葉に思いをはせることなど、そうした日常の様々な体験も、すべて文学との関わりです。

大津に受け継がれてきた豊かな「文学資源」への理解を深めるとともに、日々の「ことばの営み」を、みんなで楽しみ、育て、次の世代へつないでいく。そのような広い意味での「文学」を、本戦略では対象とします。

第2章 「文学のまち大津」を取り巻く現状と課題

1 大津市の文学資源

大津市では、『万葉集』から『源氏物語』、百人一首、松尾芭蕉、そして現代文学まで、1300年以上にわたる文学文化を育んできました。また、紫式部や蝉丸、松尾芭蕉など多くの文学者とゆかりを持ち、現在も大津にゆかりのある作家が活躍しています。古くから街道や水運によって多くの人や物が行き交い、石山寺、延暦寺、園城寺（三井寺）をはじめとする寺社や琵琶湖の風景など、多くの場所が文学作品の舞台や創作の源泉となってきました。

ここでは大津市の代表的な文学資源を紹介します。

（1）人物・作品

①天智天皇と百人一首

天智天皇は、667年に近江大津宮へ都を移した天皇です。百人一首の第一番歌を詠んだとされ、大津との文学的なつながりを示す人物の一人です。天智天皇を主祭神としてまつる近江神宮は、百人一首や競技かるたとの結び付きから「かるたの聖地」と呼ばれています。

②紫式部と『源氏物語』

紫式部は、大津にゆかりを持つ文学者の一人です。代表作『源氏物語』は、主人公・光源氏の生涯と、彼を取り巻く女性たちとの関わりを軸に展開する作品で、千年以上にわたって多くの人々に読み継がれています。令和6（2024）年にはNHK大河ドラマ「光る君へ」で紫式部の生涯が描かれ、大津も紫式部ゆかりのまちとして注目されました。

③蝉丸と百人一首

蝉丸は生没年不詳の歌人で、百人一首にも歌が収められています。逢坂の関は古くから和歌に詠まれてきた場所で、蝉丸は「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関」と詠みました。大津には蝉丸をまつる蝉丸神社もあり、人物と土地の双方に文学とのつながりが残されています。

④松尾芭蕉と『幻住庵記』

松尾芭蕉は大津を幾度となく訪れ、元禄3（1690）年には幻住庵に4カ月間滞在し、その生活や心境を『幻住庵記』に記しました。「行く春を近江の人と惜しみける」と詠むなど近江を愛し、遺言によって義仲寺に葬られました。市内には現在も多くの芭蕉句碑が残されています。

⑤横光利一と近代文学

横光利一は大津で幼少期から青年期を過ごした作家で、『蠅』『日輪』『機械』などの作品を残しました。また、琵琶湖を題材とした作品『琵琶湖』があり、大津にゆかりを持つ近代文学者を代表する作家の一人です。

⑥現代の大津ゆかりの作家と作品

現代においても、大津にゆかりのある作家と作品が生まれています。大津市在住の今村翔吾氏による『塞王の楯』、大津市出身の風良ゆう氏による『汝、星のごとく』、大津市在住の宮島未奈氏による『成瀬は天下を取りにいく』など、全国的に注目される作品が続いています。

(2) 土地・場所

①石山寺

石山寺は、『源氏物語』をはじめ、『蜻蛉日記』『更級日記』などにもゆかりを持つ寺院です。特に、紫式部が石山寺に参籠し、琵琶湖に映る十五夜の月を見て『源氏物語』の着想を得たといわれることから、大津を代表する文学ゆかりの寺となっています。

②近江神宮

近江神宮は、百人一首の第一番歌を詠んだとされる天智天皇を主祭神としてまつる神社です。百人一首との深い関わりから「かるたの聖地」と呼ばれ、競技かるたとも強く結び付いています。大津における百人一首文化を象徴する場所の一つです。



石山寺



近江神宮

③比叡山延暦寺・園城寺（三井寺）

比叡山延暦寺と園城寺（三井寺）は、古くから多くの文学作品に登場してきました。天台宗の二大勢力として対立を繰り返した歴史は、『平家物語』や『太平記』にも描かれています。

また、延暦寺は『源氏物語』、三井寺は『徒然草』をはじめ、様々な文学作品との関わりを持っています。

④幻住庵・義仲寺

幻住庵は、松尾芭蕉が元禄3（1690）年に4カ月間滞在し、『幻住庵記』を著した場所です。一方、義仲寺は木曾義仲ゆかりの寺であるとともに、芭蕉の墓所があります。市内に残る多くの句碑とともに、大津と松尾芭蕉との深いつながりを現在に伝える場所です。



幻住庵

⑤逢坂の関・逢坂山

逢坂の関や逢坂山は、古くから東西を行き交う人々の出会いや別れと結び付き、多くの和歌や物語に登場してきました。蟬丸や清少納言などもゆかりがあり、周辺には蟬丸神社や小野小町供養塔などの文学に関わる場所も残されています。

⑥琵琶湖・近江八景

比良山は『万葉集』や『比良山古人霊託』、唐崎は『新古今和歌集』に登場し、瀬田の唐橋は「急がば回れ」のことわざや『依藤太物語』などとゆかりがあります。また、堅田の浮御堂には松尾芭蕉や高浜虚子などに関わる句碑が残るなど、琵琶湖を取り巻く各地に、作品や作家と結び付いた場所が点在しています。琵琶湖を中心とする風景そのものも、大津の文学を育んできた重要な要素です。



琵琶湖・瀬田の唐橋

⑦坂本のまちなみ

坂本周辺には、今村翔吾氏の『塞王の楯』に登場する石垣職人「穴太衆」にゆかりのある穴太の石積みがあります。同作は、戦国時代の天津を舞台に、穴太衆と鉄砲職人「国友衆」の攻防を描いた歴史小説で、第166回直木賞を受賞しました。

⑧膳所エリア

膳所エリアには、宮島未奈氏の「成瀬」シリーズにゆかりのある、ときめき坂や膳所高校などがあります。『成瀬は天下を取りにいく』は、大津市に住む中学生・成瀬あかりと彼女を取り巻く人々の交流を描いた青春小説で、2024年本屋大賞を受賞しました。



「塞王の楯」
(集英社)



「成瀬は天下を取りにいく」
(新潮社)

2 市民による文学・文化活動

大津市においては、多くの市民サークルが活動しており、俳句、短歌、川柳、エッセイ、朗読、読み聞かせ、万葉集学習、書道、詩吟、能などの活動が盛んです。

また、市民文芸誌「湖都の文学」や短歌・俳句大会など、様々な発表の場も存在します。

近年では、文学作品やイラスト・写真などを自由にまとめた自費出版「ZINE（ジン）」の創作・販売も行われるなど、新たな文学表現や発表の場も生まれています。

（1）団体・活動

①大津あきのた会

競技かるたの普及と技術向上に努め、百人一首を通じて世代を超えた親睦と地域交流を深める、大津市を拠点とする団体です。



大津あきのた会の活動の様子

②青春 21 文字プロジェクト

公共交通を舞台に、ことばの力で地域の魅力を発信する市民グループであり、毎年「青春 21 文字のメッセージ」を募集・展示しています。「青春 21 文字のメッセージ」は、電車と青春から浮かぶ風景や思い出を 21 文字で表現します。

このプロジェクトは、京阪電鉄石山坂本線（通称・石坂線）の駅数が 21 あることにちなんだもので、2026 年で第 20 回を迎えました。



第 20 回募集ポスター（2026 年）

③大津市俳句連盟

「大津市民短歌・俳句大会」の実施や、「楽しい短歌会」など、仲間内だけで楽しむという枠を超え、さまざまな会同士で作品を見せ合い、切磋琢磨する機会を大切にしている団体です。

令和 8 年現在、連盟では、「さつき祭（6 月）」、「唐崎俳句大会（9 月）」、「幻住庵・芭蕉祭俳句大会（10 月）」、「大津市民短歌・俳句大会（11 月）」という 4 つのイベントを毎年行っています。

※「唐崎俳句大会（9 月）」は主催ではなく、実施協力を行っています。



大津市俳句連盟の活動の様子

④大津短歌連盟

大津市内で活動する短歌グループで構成される連盟です。他者からの評価や交流を重視し、市民文芸誌「湖都の文学」への投稿など作品を広く発表することも積極的に呼びかけています。

令和 8 年現在、連盟では、「湖都の文学に投稿するための競作」、「大津市民短歌・俳句大会出稿のための競作」、「大津短歌連盟楽しい短歌の会」、「大津市民短歌・俳句大会 短歌部門 応募作品鑑賞」、「湖都の文学に掲載した作品の鑑賞会」という 5 つの取組を行っています。



大津短歌連盟の活動の様子

（２）発表の場

①湖都の文学

本誌は、昭和 44 年度の創刊以来、長年にわたり刊行を重ねてきた歴史ある市民文芸誌です。市民が日常生活の中で育む豊かな感性や創作の成果を発表する機会を提供するとともに、作品を冊子として保存し後世に伝えることを目的に刊行しています。

短歌、俳句、川柳、詩・漢詩、随筆、小説の部門を設け、言語表現を通じた創作活動と部門を越えた表現者間の交流の促進にも寄与しています。



湖都の文学 2025 年号

②湖都の葉マルシェ

文学作品のフリーマーケットを中心として、子どもから大人まで世代を問わず文学を身近に楽しめるイベントです。プロ・アマ問わず幅広い出店者が参加し、自費出版（ZINE など）から商業出版まで、多彩なジャンルの文学作品が集まります。

また、開催年ごとにステージイベントやワークショップ、図書館との連携企画、飲食店の出店など文学に様々な角度から関われる催しが行われます。



湖都の葉マルシェ（2025 年）の様子

3 市民アンケート結果

本戦略の策定にあたり、市民の「文学のまち」に対する意見や希望等を把握するため、令和7年9月から10月にかけて『文学のまち大津』ブランディング戦略（仮称）策定に関する市民意識調査」を実施しました。

（1）調査概要

①対象・期間

調査対象：大津市内に居住する18歳以上の男女、3,000人

調査方法：郵送配布、郵送又はウェブアンケート（無記名）による回収

調査期間：令和7年9月17日から10月7日まで

②回収結果

標本数：3,000

回収数：1,196件（調査票による回答767件、WEBによる回答429件）

回収率：39.9%

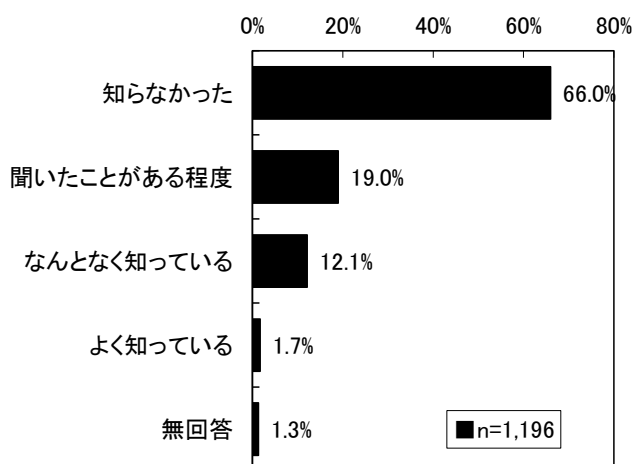
（2）集計結果概要

①現状とポテンシャルに関すること

文学資源の認知度が高い一方、「文学のまち大津」の取組に対する認知度は低い状況が見られました。

大津市が「文学のまち」を目指していることを「知っている」「なんとなく知っている」「聞いたことがある」は、合わせて約33%にとどまっていました。

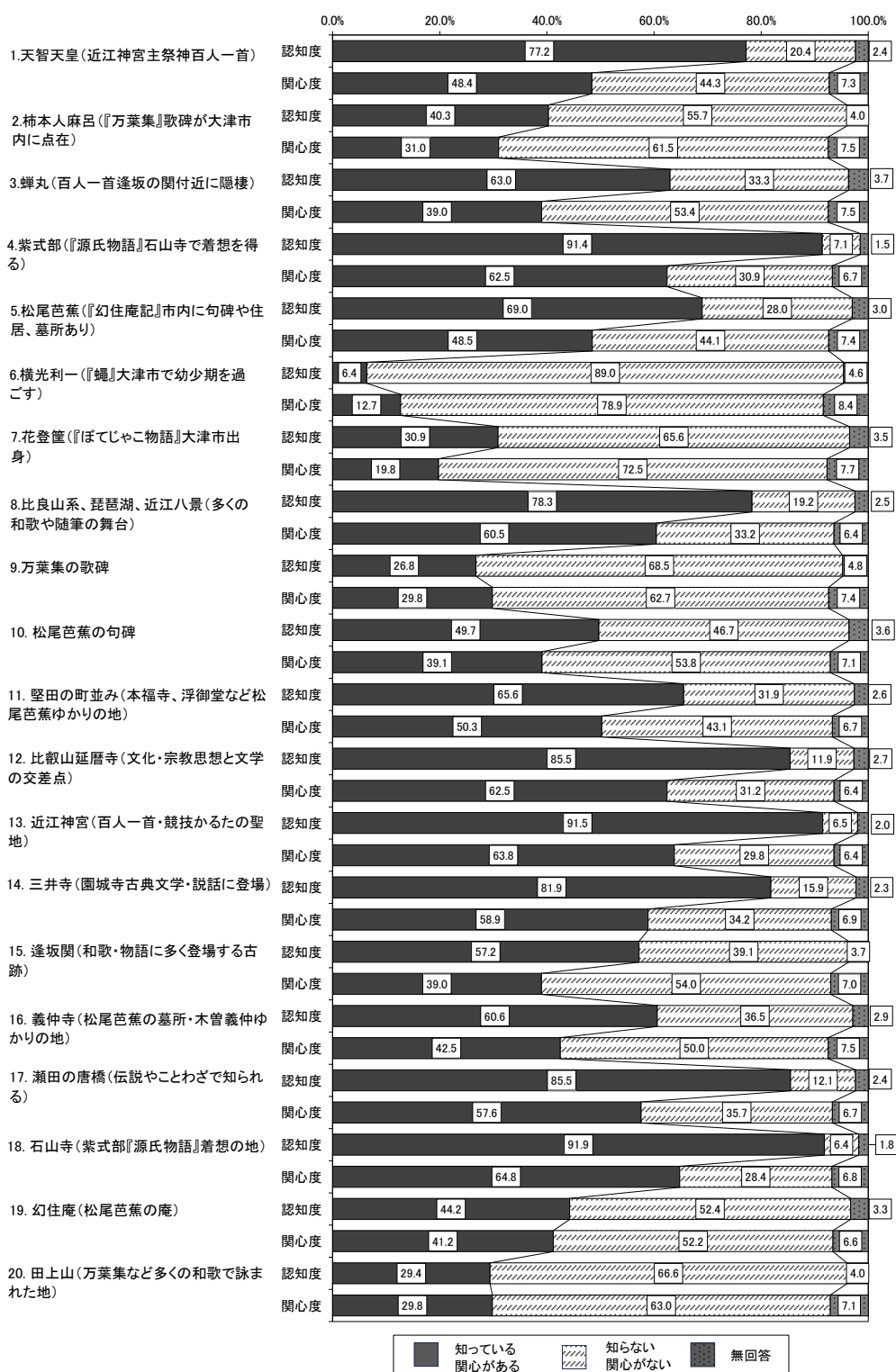
問. あなたは大津市が「文学のまち」を目指していることを知っていますか。（1つに○）



地域資源の認知度は高く、「石山寺（91.9%）」「近江神宮（91.5%）」「紫式部（91.4%）」が上位を占め、市民の中に文学的土壌への親しみが根づいていることがわかります。

特定の著名な資源の認知度は高い中、俳句に関連する逢坂の関（57.2%）、幻住庵（44.2%）は一定の認知度となりました。

問 大津市内にある文学に関わる地域資源で、あなたの認知度（1. 知っている／2. 知らない）と関心度（1. 関心がある／2. 関心がない）を教えてください。（各項目1つに○）

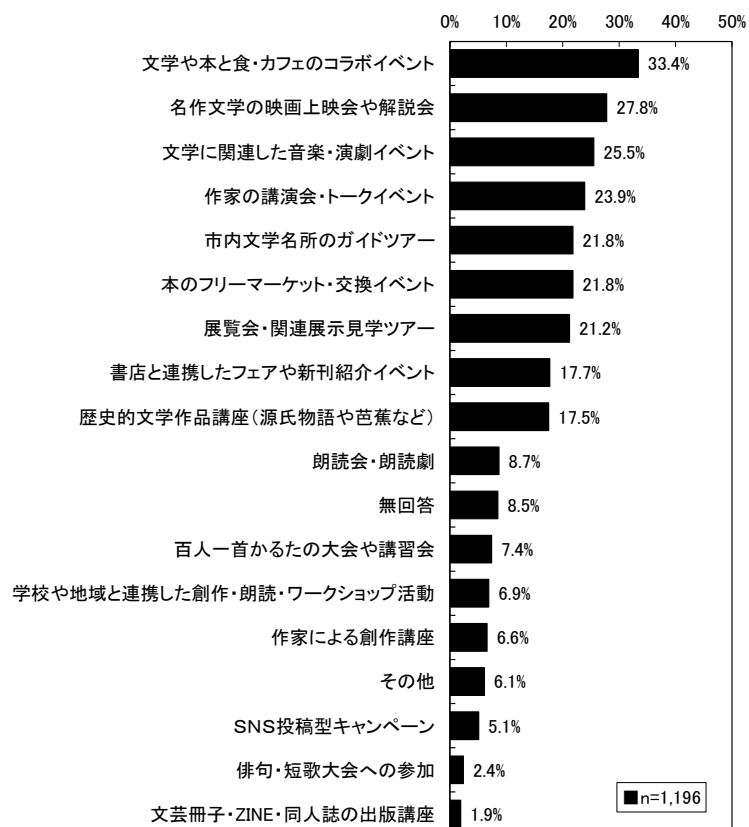


②イベント・活動に関すること

参加型・体験型のイベントへの関心が高い一方、創作やイベント参加などの実践経験は少ない状況が見られます。

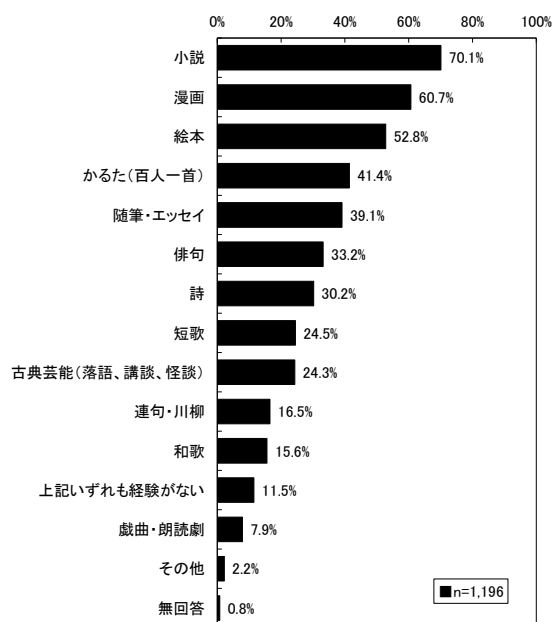
参加意向の高いイベントは「文学や本と食・カフェのコラボ (33.4%)」が最多となっています。

問. あなたが参加したいと思う文学に関するイベントを教えてください。(当てはまるものすべてに○)



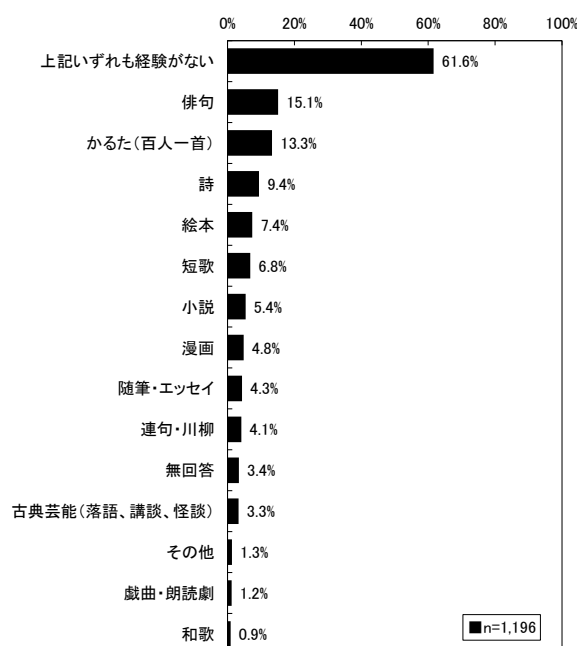
文学ジャンルの鑑賞経験は全体で「小説（70.1%）」が最多ですが、40代以下の層では「漫画」が最も多く、世代によって「文学」への入口が大きく異なることがわかります。

問. 文学について下記のジャンルのうち、読んだり、鑑賞したことがあるものはありますか？（当てはまるものすべてに○）



創作・イベント参加などの実践経験は、61.6%が「経験がない」と回答しており、活動へのハードルが高いことが示唆されます。

問. 文学について下記のジャンルのうち、実践（創作・参加した）したことがあるものはありますか？（当てはまるものすべてに○）

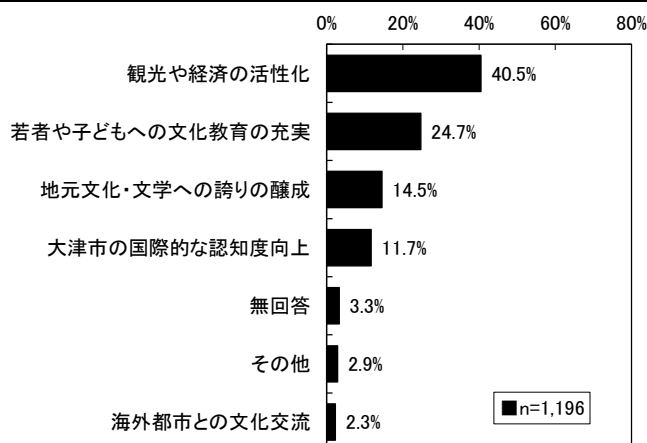


③プロモーションに関すること

情報発信には観光や経済の活性化、若者や子どもへの文化教育の充実が期待されるとともに、更なる発信強化が求められています。

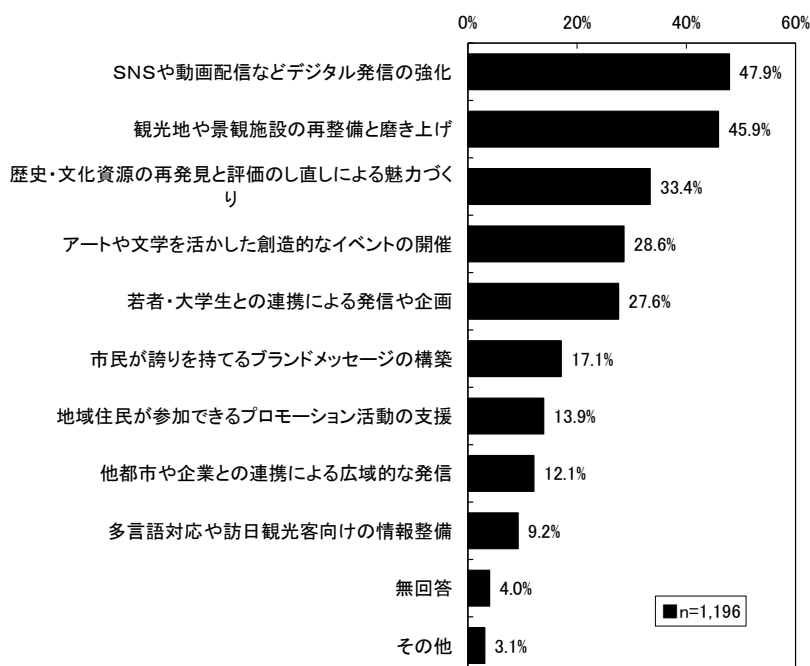
対外的な発信に期待する効果は、「観光や経済の活性化（40.5%）」が最も多く、次いで「若者や子どもへの文化教育の充実（24.7%）」が続いています。

問. 「文学のまち大津」を国内外に対外的にプロモーションするに当たり、期待する効果は何ですか？（1つに○）



今後取り組むべきプロモーション（取組不足の分野）として、「SNSや動画等のデジタル発信の強化（47.9%）」や「観光地や景観施設の再整備（45.9%）」が挙げられています。

問. 大津市が今後取り組むべきプロモーション施策は何だと思えますか？（当てはまるもの3つに○）

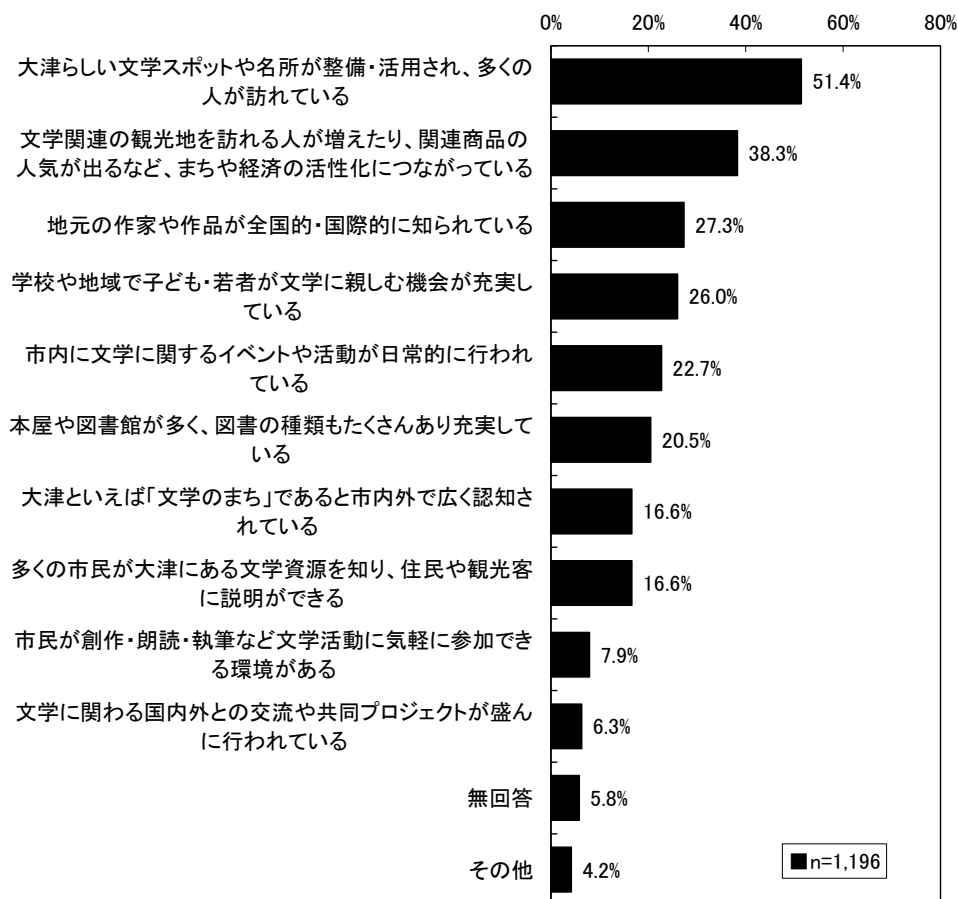


④「文学のまち」が実感できる姿と情報取得方法に関すること

「文学のまち」を実感できる文学スポットの整備とともに、様々な媒体を活用した情報発信が求められています。

「文学のまち」だと実感できる状態として、「文学スポットが整備され、多くの人が訪れている(51.4%)」が最も多く挙げられています。

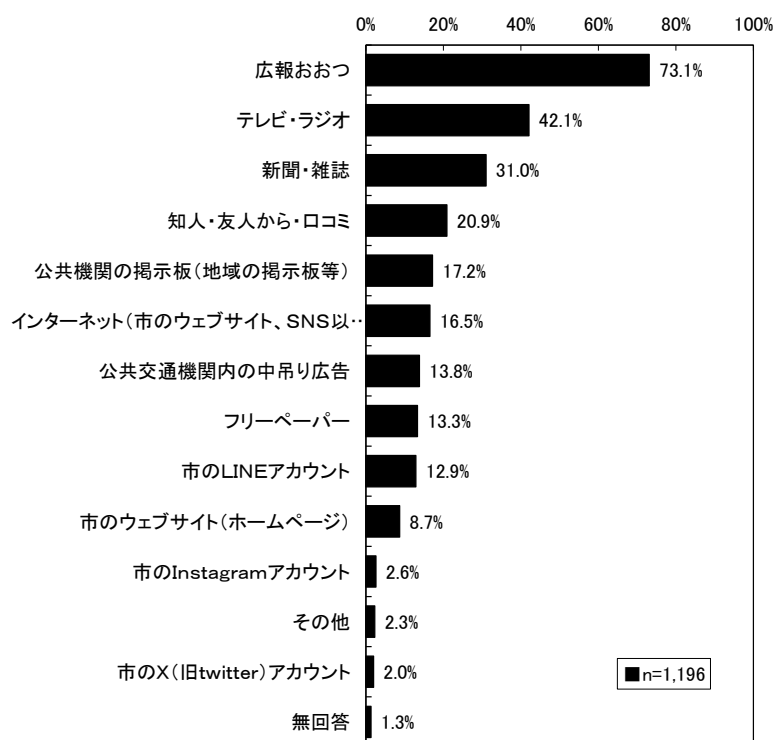
問. あなたが「大津市は文学のまちだ」と実感できるのは、どのような状態になったときだと思いますか。(当てはまるもの3つに○)



大津市の取組や大津市のイベント情報を知る主な手段としては、「広報おおつ（73.1%）」が突出しており、次いで「テレビ・ラジオ（42.1%）」が多くなっています。プロモーション施策としては、「SNS や動画配信などデジタル発信の強化」が最も多くなっています。

問. あなたが大津市の取組や大津市のイベント情報を知る主な手段は何ですか？（当てはまるもの3つに○）

・「広報おおつ」が73.1%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が42.1%、「新聞・雑誌」が31.0%となっています。



4 文学に関わる市民・団体による意見

本戦略の策定にあたり、文学に関わる市民・団体（教育機関、民間事業者を含む）による意見を把握するため、意見交換会やヒアリングを実施しました。

（１）「文学のまち大津」意見交換会

①開催概要

日 時：令和 8 年 2 月 14 日（土）午前 10 時～11 時 30 分

場 所：大津市民文化会館 1 階 多目的ホール

対象者：「文学のまち大津」に関心のある市民、クリエイター（劇作家、演出家、俳人等）、地域出版社、教育・文化関係者、行政職員

参加者：9 名（事務局除く）

目 的： ワークショップ形式で実施し、「文学のまち・大津」ブランディングに関する戦略およびロードマップ（2026 年 5～6 月頃策定予定）の素案に、市民、事業者、関係団体の意見を反映させることを目的とする。

また、ユネスコ創造都市ネットワーク（文学分野）への加盟を視野に、市民協働でプロジェクトを推進する方針を確認する場とする。

②開催結果（主な意見）

テーマ１ あなたが思う『文学のまち』とはどんな姿なのか？身近で「文学のまち大津」を感じることはある？

「文学のまち」の姿について、大津が持つ歴史的・自然的資源の価値を再確認しつつ、日常生活における文学の浸透度と課題について活発な議論が交わされました。

○歴史的資源と自然景観に関すること

- ・ 古代から中世の資源が非常に豊富。歴史の中から物語を掘り起こしていきたい。
- ・ 石山寺、義仲寺、三井寺、逢坂の関など、これほど物語の舞台が密集している場所はない。
- ・ 瀬田川沿いを歩く時、大きな湖から滋賀、京都、大阪へ流れて行く水の繋がりの中に文学的な情緒を感じる。
- ・ 自然景観そのものが、古の文人たちと同じ感性を呼び起こす装置になっている。

○文学活動を担う人々に関すること

- ・ 大津には作家も出版社も多く住んでいる。市民文芸誌『湖都の文学』が長年続いているのもその証拠。
- ・ 短歌や俳句、朗読などの活動団体が非常に多く、文化を支える市民の層が厚い。

○「文学のまち」の浸透度に関すること

- ・ 知られていない資源が多すぎる。もっとジャンルを問わず、今ある資源を『見える化』し

ていかないと宝の持ち腐れ。

- ・街中の本屋がどんどん減っており、地元の本や滋賀に関連する本を手に入る機会が失われている。
- ・地域の図書館をもっと活発化させて、行きやすく魅力がある場所にしてほしい。

テーマ2 「文学のまち大津」で取り組みたいこと、実現して欲しいことは？

市民が表現者として参加できる具体的な仕組みや、既存の施設をよりオープンな交流拠点へと進化させるための多彩なアイデアが提案されました。

○市民の表現・創作支援に関すること

- ・本屋大賞のように、市民や地元の書店員がみんなで選ぶような賞があれば、街全体で盛り上がるはず。市民が『推しの作品』を応援できるような大津独自の仕組みにしたい。
- ・一人出版社やZINEの見本市のような、いわゆる『ミニコミケ』的な場をもっと身近にあれば、創作のハードルが下がり、若い人も参加しやすくなる。

○デジタルを活用した取組に関すること

- ・SNS やデジタルマップをフル活用して、いま街のどこでどんな文学的な活動が起きているかを、常に『見える化』してほしい。
- ・デジタルマップを見ながら街歩きをして、その場所ゆかりの物語や市民の投稿作品をその場で読めるような、新しい体験ができる仕掛けが欲しい。

○施設の役割に関すること

- ・義仲寺の入場料を補助するなどして、もっと市民が気軽に入れるようにしてほしい。そこを拠点に俳句を詠む文化を広め、若い人や観光客がわざわざ立ち寄りたくなる『聖地』として再整備すべき。
- ・地域の図書館をもっと活発化させて、行きやすく魅力がある場所にしたい。例えば図書館の中で本を売ってもいいと思う。地元の本屋さんコラボして、魅力的な選書コーナーやイベントを企画するなどのバックアップをしてほしい。

○地域性に密着した活動について

- ・大津の36学区それぞれにある民話や歴史、あるいは何気ない今の日常を掘り起こしていきたい。自分たちの街の物語を自分たちで伝えていく『物語の地産地消』のような取り組みが必要だ。
- ・小学校の俳句クラブをもっと活性化させたり、国語の授業にプロの俳人を招いて講座を開いたりして、子どもたちが言葉を『遊び』や『表現』として楽しめる機会を学校現場に増やしてほしい。

【テーマ3】どんな大津市なら『文学のまち』と誇れるのか？

文学が一部の愛好家のものではなく、市民一人ひとりの主体的な活動と結びつき、大津に住むことの誇りや幸福感に繋がっている姿が理想として描かれました。

○市民の主体性について

- ・行政にお任せするのではなく、市民が根っこから立ち上がるような『文学のまち』であってほしい。市民自らが『書きたい、作りたい、発表したい、そして読みたい』という衝動を持って動くことが一番大切。

○琵琶湖の位置づけについて

- ・圧倒的な琵琶湖という自然がある『びわこのほとり』という独自の立ち位置を、私たちのアイデンティティにしていきたい。
- ・琵琶湖を眺めながら物語を紡いできた先人たちと同じように、この場所だからこそ生まれる今の物語を、大津独自のブランドとして自信を持って発信したい。

○日常の風景に「文学」や「物語」感じることにについて

- ・街を歩いている時に、ふと文学や物語の存在を感じられるような仕掛けが必要。デジタルマップなども活用して、そこに行けば誰でも簡単に情報にアクセスできる状態が理想的だ。
- ・特別なイベントの時だけでなく、日常の風景の中に歴史的な資源と新しい市民の表現活動が違和感なく混ざり合って、目に見える形になっているのが『文学のまち』だと思う。

○世代を超えた継承について

- ・子どもたちが自分の住む地域の物語を当たり前知っていて、それを自慢できるようなまちにしたい。家庭や地域の中で、文化のバトンが自然に次世代へ渡されているのが理想の姿だ。
- ・お年寄りが持つ地域の記憶や物語を、若い世代が新しい感性で受け取って形にするような、世代間の交流が生まれる循環を大切にしたい。

○幸福感への寄与について

- ・単に有名な作家がいるということではなく、文化的な豊かさが市民の生活の質（ウェルビーイング）に繋がっていることが重要。自分の街を誇れることが、結果として『住み続けたいまち』としての本当の評価になる。
- ・市民の皆さんが自分の街を心から愛していること。文学という窓を通して街の魅力を再発見し、日々の暮らしに彩りや誇りを感じられるような状態を目指したい。

(2) 文学に関わる団体へのヒアリング

①実施概要

実施期間：2025 年 8 月 14 日～2026 年 9 月 5 日

実施回数：26 回（対象団体数は 25 団体）

②対象団体

【文学関係団体】

藻刈俳句会、長月句会、葉月句会、淡海エッセー同好会、石山俳句同好会如月会、グループ源氏大津、英語の本を読む会、さざなみ短歌会、せせらぎ俳句会、「雉」大津本丸句会、ひまわり句会、滋賀作家クラブ、大津おはなしのとびら、大津あきのた会、大津市俳句連盟、滋賀先生の初心者俳句教室、大津短歌協会（大津短歌連盟）、『湖都の文学』編集部

【高校・大学】

滋賀大学、成安造形大学未来社会デザイン共創機構、成安造形大学（イラストレーション領域）、滋賀県立東大津高等学校（ビブリオバトル出場）、滋賀県立膳所高等学校競技かるた班

【書店・出版社】

扶桑書店、株式会社アチェロ（出版・編集プロダクション）

③ヒアリング結果（主な意見）

ヒアリングで寄せられた意見を、対象ごとに主なテーマに沿って整理すると、以下のとおりです。

【文学関係団体】

大津市内で活動する文学関係団体（市民サークル・統括連盟・編集部など）への聞き取り調査では、現場の活動や運営を巡るリアルな声や課題、行政への要望が寄せられました。

○高齢化・小規模化と後継者不足・世代交代

多くの団体で会員の高齢化が進んでおり、組織の小規模化や後継者・若い世代の確保が共通の課題となっています。

- ・ 幹事の自分が最年少というくらいに高齢化している。もっと若い人に参加してもらい、常に代替わりができるようになっていたい。 — 葉月句会
- ・ 最近の傾向として、句会の規模が小さくなってきている。昔はもっと大人数で組織だったが、最近是小規模化・分散化している。その分、市内の句会全体の把握も難しくなっている。 — 滋賀先生の初心者俳句教室
- ・ 連盟役員は現在 12 名いるが、みなさん高齢者でなかなか動くのが難しいのが現状である。小中学生は俳句教室などで生き生きと創作に取り組んでくれるが、大人になると全く接する機会が途切れてしまう。 — 大津市俳句連盟
- ・ 高年齢化でどうしても内向きになりがちで、出てきてもらうのも大変。知らない人の前で評価を受けることに抵抗感があるようだ。連盟のメンバーも高齢化しており、次を担う人

を見つけていくのが課題だ。― 大津短歌協会

- ・2010年に合同句集を創刊した際は85名で年4回ほど刊行していたが、現在では年1回の刊行となり、投稿者は25名と大幅に減少している。― ひまわり句会

○現状維持と組織拡大

仲間内で気兼ねなく楽しむ「現状維持」を望む団体がある一方、外に出て切磋琢磨することを促したい連盟や講師側もあり、各団体で方向性が異なっています。

- ・会員を広げようとしているわけではない。自分の想いを句にして仲間内や先生に聞いてもらうのが句会の趣旨であり、それ以外の人に見てもらう必要はない。― 藻刈俳句会
- ・一時はメンバーが減って存続の危機もあったが、今の人数（12人）がちょうど良いので、新規勧誘や会の拡大は考えていない。体験会は公民館の義務のようなものなので参加しているが、メンバーを増やしたいわけではない。― 長月句会 幹事
- ・匿名で句を詠んで講評するには、現状の10人以上20人以内の人数が適している。少なすぎると匿名性が確保できず、多すぎると時間内に収まらない。現状の人数がベストであり、これ以上の拡大は困難だ。― 石山俳句同好会如月会
- ・どうしても『内輪だけでやりたい』という意向が強くなるものだが、サークルの外へ出てきて他者と交流し、切磋琢磨してもらうのが狙い。参加しやすくなるように色々気を使って企画している。― 大津短歌協会
- ・独りよがりでの創作よりも、人と語り合いながら創作することで他者の考え方や読み方を知ることができる。自部員の世界のみだと固まってしまって上達しない。遠慮なく言い合える場は重要である。― さぎなみ短歌会

○活動場所や利用手続き・運営面の課題

公民館の利用手続きや登録制度の負担、部屋の機能、設備面での困りごとなど、現実的な運営上の課題が挙げられています。

- ・公民館の登録サークルでいると、会議や地域行事への動員、計画書・決算書などの書類提出に縛られることが多い。会議や動員の縛りがなくなるメリットを考慮して、登録サークルを脱退し、都度予約して使用料を支払う方法へ移行する動きもある。― 長月句会
- ・高齢化に伴い、公民館の利用者団体としての分担や役割が負担になって脱退した。現在はその都度教室の使用申請を出しているが、予約が対面のみとなっている。― 英語の本を読む会
- ・最近は公民館などで畳の使える部屋が少なくなっている。武道館などを無理言って借りているが畳が傷むなどの問題がある。最近は、試合前の素振り（空うち）として、畳に打ち付けることを禁止する高校もあると聞く。― 大津あきのた会

○健康増進や地域コミュニティとしての役割

文芸活動が単なる趣味を超えて、高齢者の認知症予防や生きがい、地域での居場所として機能している側面が強調されました。

- ・高齢者の健康推進として、俳句の五七五に合わせて体を動かしたり大きな声で読んだりする取り組みを行っている。五七五のリズムは体に良い。高齢になると、行くところや用事

があることが元気の秘訣。仲間に出て情報収集できる意味でも俳句は素晴らしい。 — 『湖都の文学』

- ・少人数で楽しくやっているので、出かける目標になっており、それが健康寿命を延ばしているのかもしれない。頭を使う知的遊戯として認知症予防になっている可能性がある。 — 滋賀先生の初心者俳句教室

○作品発表・保存の場と出版・広報支援への期待

市民文芸誌『湖都の文学』や個人・グループでの作品集刊行が創作の大きなモチベーションとなりうるという意見がありました。

- ・『湖都の文学』は投稿作がそのまま、図書館にずっと残っていく。個人で本を出すのは難しいが、何十年先かにお孫さんが図書館で探して作品を見つけられるのは大きな意義がある。Web と違い手にとって見られる紙の本の良さがある。 — 『湖都の文学』
- ・自分で歌集を出すことが一番の充実感・納得感につながるが、自費出版のため資金が続かない。出版援助や『大津市推薦』といった帯がつくような振興策があれば励みになる。また、広報おおつに『今月の十首』のような文芸欄があると投稿者が増えるのではないかな。 — 大津短歌協会

○子ども向け体験・入門講座・普及活動の重要性

子ども向け体験、初心者向けの出会いの場づくりやの重要性が強調されました。

- ・将来に向けて、若い子を育てる・増やすことが一番大事。毎年初心者教室を開いて裾野を広げている。また、中学高校は地元で活動し、大学でも続けて地元に戻り指導に回るという OB 指導のローテーションがある。中学から高校に上がるくらいの中弛みの時期につなぎとめられるかどうかである。 — 大津あきのた会
- ・初心者講座に出て自分で句会を立ち上げる人もいる。小規模化・分散化が進み、伝統のある句会が消えて新しい句会ができていくという意味では、初心者入門講座がより大事になるのかもしれない。 — 滋賀先生の初心者俳句教室
- ・本の内容を覚えて語る『ストーリーテリング（素語り）』は聴き手自らがイメージするため国語力の基礎となり、低学年での体験は重要。反面、幼稚園や小学校、図書館での語りの機会が減少している。語り手の育成については、いきなり例会で話すのは大変なため、入門講座や簡単なテキストを作成するが良いだろう。 — 大津おはなしのとびら

【高校・大学】

大津市内の高校・大学への聞き取り調査では、生徒・学生による主体的な活動や、「言葉」を軸とした表現・アートの可能性、地域や社会と直接つながる学びの意義について、意見をいただきました。

○若者の表現活動・学びと社会・地域とのつながり

ビブリオバトルや ZINE（個人冊子）制作、作品展示などを通じて、自らの感情や考えを言語化し、世代を超えた他者や地域社会とつながる価値が語られました。

- ・近年実施した「ことばを絵にする企画」では、言葉を書く人と絵を描く人が別であることに面白さがある。自分の言葉が別の誰かによって絵になることで新しい発見が生まれ、展示会場では世代を超えたコミュニケーションが広がっていた。 — 滋賀大学・馬淵先生
- ・ビブリオバトルに挑戦したことで感情を言語化する力やコミュニケーション能力が伸びた。年齢も立場も違う人たちと、本を通じてつながれることが本当に楽しい。 — 滋賀県立東大津高等学校
- ・学生がイラストやデザインを通じて社会や企業と関わったことが、就職や将来のキャリア開拓にもつながっている。 — 成安造形大学 未来社会デザイン共創機構

○「言葉」とアート・多様なメディアの融合

文学や言葉を単なる文章にとどめず、絵画や ZINE、4 コマ漫画など、視覚的・動的な表現へ展開する柔軟な取り組みが提示されました。

- ・ZINE（個人メディア）は SNS に近い感覚で、自分の思いや日常を自由に一冊の本として発信できる。完成度の高さよりも「実際に形になること」を重視している。 — 成安造形大学
- ・本にまつわる思い出や大津の文学・歴史を 4 コマ漫画にすることは、学生にとって良いトレーニングになり、それを商店街やイベントで飾れば、人々が、文学にまつわるストーリーを視覚的に体感できる。 — 成安造形大学 未来社会デザイン共創機構

○デジタル時代における身体感覚とリアルな場の価値

デジタル化が進む中で、紙の本の手触りや空間の静寂、対面でのコミュニケーションといった身体感覚を伴う体験の重要性が強調されました。

- ・漫画はデジタルで読むが、小説は紙の本一択。紙の色味や温かみ、インクの香りなど、紙でないと伝わらない魅力がある。 — 滋賀県立東大津高等学校
- ・デジタルだけで完結せず、インクの匂いや紙の手触り、ページをめくる感覚といった身体感覚を伴う体験や、一冊に情報が整理されている本の価値はこれからも残り続ける。 — 成安造形大学
- ・競技かるたの魅力と達成感 ・静寂の中で自分の好きな札を一番早く取れたときの充たされた感覚や達成感は格別。相手の裏をかく戦略性や理想通りの動きができたときが一番楽しい。 — 滋賀県立膳所高等学校 競技かるた班

○「正解のない問い」に向き合う創造性の育成

教育や創作の現場において、あらかじめ用意された正解をなぞるのではなく、自ら問いを立てて試行錯誤する姿勢を育む大切さが示されました。

- ・間違えることを恐れずに「答えを出す人」ではなく「問いをつくる人」を育て、「道を踏み外すチャンス」を用意したい。クリエイティブの世界は正解がない。 — 成安造形大学
- ・百人一首を覚えるのは 1 週間程度ででき、初心者からでも上達できる。自分で目標を立て、級ごとの大会に挑戦できる。 — 滋賀県立膳所高等学校 競技かるた班

【書店・出版社】

大津市内の書店や出版社（編集プロダクション）への聞き取り調査では、厳しい経営環境の中で果たす地域の居場所としての役割や、「本との偶然の出会い」、持続可能な「文学のまち」をつくる多様な主体の連携について、以下のような声が寄せられました。

○リアル書店の役割と「偶然の出会い」の価値

ネット通販やデジタル化が進む中で、街の書店が「肩肘張らない居場所」や「本との偶然の出会い」を提供する空間として重要であることが語られました。

- ・店舗経営の理想として、派手さより肩肘張らない居場所を目指している。遠方の大型店に行きづらい高齢者や生徒さんたちにも必要と言われる存在であり続けたい。 — 扶桑書店
- ・何よりも書店が増えてほしい。本屋さんには「偶然の出会い」があり、それこそが本を読む楽しさの一つ。 — 株式会社アチェロ
- ・「文学のまち大津」の取組も、本を通じて人がつながり、新しい出会いや活動が生まれるきっかけとなれば、素敵なことである。 — 株式会社アチェロ

○多様な主体が関わる「文学のまち」と自社出版の挑戦

本を読む人だけでなく、書く人・作る人・売る人など多様な主体の関わりや、地方都市から魅力的な本を届ける出版のやりがい提示されました。

- ・「文学のまち」は本を読む人だけの取り組みになると広がりが限られてしまう。読む人、書く人、作る人、売る人、図書館や学校、地域など、さまざまな人が関わることで本当の意味で「文学のまち」になっていく。 — 株式会社アチェロ
- ・オンラインツールやデータ共有の普及により、地方都市で出版社を経営することに距離のハンディキャップはあまり感じていない。滋賀県には優秀な人材が多く、+特に東京等で経験を積み地元へ戻ってきた優秀な人材と一緒に働きたい。 — 株式会社アチェロ

○経営環境の厳しさと持続可能性

出版不況や本離れにより実店舗の経営が厳しさを増す中、行政による後押しや振興プロジェクト、経済的支援への期待が示されました。

- ・本が売れない、ネット注文の時代でリアル書店は非常に厳しい。滋賀県主導の書店振興プロジェクトなどで推薦図書コーナーを設けて取り組んでいる。実店舗ならではの学習支援（教科書・参考書の提供）という役割も担っている。 — 扶桑書店
- ・新しく書店を始めようと思ったときに一番大きな壁になるのは最初の資金。そこを少しでも後押しできれば、本屋をやってみたいと思う人が挑戦しやすくなるのではないかな。 — 株式会社アチェロ

5 戦略において解決すべき課題

(1) 文学資源の認知・活用

大津には、古典から現代文学まで 1300 年以上にわたる豊富な文学資源があり、市内各地に文学にゆかりのある人物、作品、場所が存在しています。一方で、それらは市内各地に点在しており、「大津の文学として一体的に認識・活用されているとは言えません。

市民アンケートでは、「石山寺 (91.9%)」「近江神宮 (91.5%)」「紫式部 (91.4%)」の認知度が 9 割を超える一方、「逢坂の関 (57.2%)」「幻住庵 (44.2%)」など、資源によって認知度に差が見られます。また、大津市が「文学のまち」を目指していることの認知は約 33%にとどまっています。意見交換会の意見でも「知られていない資源が多い」「今ある資源を『見える化』してほしい」「日常の風景の中で文学や物語を感じられるようにしてほしい」という指摘がありました。

このため、文学資源を体系的に整理・可視化するとともに、これまで十分に知られていない資源も含めて、それぞれの魅力や大津とのつながりを分かりやすく伝え、実際に触れ、体験できる機会につなげていくことが課題です。

(2) 担い手の育成

大津市では、俳句、短歌、朗読、読み聞かせなど多様な文学・文化活動が行われていますが、活動を支える団体では高齢化や小規模化が進んでおり、役員の固定化や代替わりの難しさから活動の継続・存続が危ぶまれるなど、次世代への継承が課題となっています。また、小中学生期に触れた体験が大人になると途絶えてしまいやすい環境や、後継者不足も指摘されています

市民アンケートでは、文学作品の鑑賞経験は「小説 (70.1%)」が最も多く、40 代以下では「漫画」が最も多いなど、世代によって文学への入口が異なっています。一方、創作やイベント参加などの実践経験は 61.6%が「経験がない」と回答しており、鑑賞から創作・参加へつながる機会が十分とは言えません。

このため、子どもや若者をはじめ、幅広い世代が文学に触れ、学び、創作や発表に気軽に参加できる機会を広げ、継続的な活動や次世代の担い手につなげていくことが必要です。

（３）多様な主体との共創と魅力発信

大津市では、多様な主体による文学活動が行われていますが、市民、文学団体、大学、企業などが互いの強みを生かして連携・共創する仕組みは十分とは言えません。また、「文学のまち大津」の魅力を市内外へ継続的に発信していくことも課題です。

市民アンケートでは、今後取り組むべきプロモーションとして「SNS や動画配信などデジタル発信の強化」が 47.9%で最も多く、「若者・大学生との連携による発信や企画」も 27.6%となっています。また、対外的な発信には「観光や経済の活性化（40.5%）」や「若者や子どもへの文化教育の充実（24.7%）」が期待されています。

意見交換会では、「市民自ら」という主体性の重要性を指摘する意見や、SNS やデジタルマップを活用して、市民の投稿や作品を共有する仕組みへの提案も出ています。

このため、多様な主体の交流や参画を促し、市民が主体となった新たな取組を生み出すとともに、様々な媒体を活用して「文学のまち大津」の魅力を広く発信していく必要があります。

第3章 目指す姿と基本方針

1 目指す姿

本戦略の策定にあたり実施した基礎調査、市民アンケート、文学団体の把握等を通じて、大津には古典から現代まで1300年以上にわたる豊かな文学資源があり、市民による多様な文学・文化活動が行われている一方、それらの価値や魅力が十分に知られ、活用されていないことが見えてきました。

また、大津の代表的な文学資源について高い認知が見られる一方、「文学のまち大津」としての取組の認知は十分に広がっていないことが分かりました。また、文学作品を読む・鑑賞するといった経験に比べ、創作やイベントへの参加など、実際の活動につながる機会は限られています。こうしたことから、文学資源を知り、文学に触れることを、より身近な体験や活動へとつなげていくことが求められています。

大津が育んできた歴史や風土、豊かな文学資源を未来へ受け継ぐためには、市民一人ひとりがその価値を知り、大津の魅力として誇りを持つとともに、読む、書く、語る、作品の舞台を訪れるなど、それぞれの方法で文学に関わり、楽しんでいくことが大切です。

こうした「ことばの営み」が人と人、地域と地域、過去と未来をつなぎ、新たな文化を育んでいく姿を目指し、本戦略の目指す姿を次のとおり定めます。

目指す姿

市民が大津の文学資源に誇りを持ち、生涯にわたって文学を楽しむまち大津

「**誇りを持ち**」には、市民が大津に受け継がれている文学資源を知り、その価値や魅力を自分たちの地域のものとして大切にしていける姿を、「**文学を楽しむ**」には、子どもから大人まで、一人ひとりがそれぞれの関心や生活に応じた方法で文学に触れ、学び、表現し、交流しながら、生涯にわたって文学と関わっていく姿を込めています。

2 基本方針

目指す姿の実現に向けて、次の3つの基本方針に基づき施策を展開します。

基本方針1 「触れる」「知る」

大津ゆかりの文学資源を体系的に調査・整理し、市民や来訪者が文学に触れ、学び、体験できる環境を整えることで、文学資源の価値を再発見し、「文学のまち大津」の魅力として発信・活用を図ります。

基本方針2 「学ぶ」「深める」

子どもから大人まで、文学に親しみ、学び、創作や発表を行う機会を充実させるとともに、文学活動を支える人材や次世代の担い手を育成し、「文学のまち大津」を将来にわたって支える人づくりを推進します。

基本方針3 「つながる」「広がる」

市民、文学団体、大学、企業、出版社、書店など、多様な主体との連携・共創を推進するとともに、それぞれの強みを生かした取組を展開することで、「文学のまち大津」の魅力を市内外へ発信し、持続的に発展する仕組みづくりを進めます。

第4章 施策の展開

1 施策体系図

目指す姿及び基本方針の実現のため、次のとおり施策を体系化し、計画的な推進を図ります。

目指す姿	基本目標	施策
市民が天津の文学資源に誇りを持ち、生涯にわたって文学を楽しむまち天津	基本方針1 「触れる」「知る」	施策 1-1 文学資源の調査・整理・可視化
		施策 1-2 文学資源を体験する機会の創出
	基本方針2 「学ぶ」「深める」	施策 2-1 子ども・若者が文学に親しむ機会の充実
		施策 2-2 創作活動・人材育成の推進
	基本方針3 「つながる」「広がる」	施策 3-1 多様な主体との連携・共創の推進
		施策 3-2 戦略的な情報発信とブランド力向上

2 各施策の展開

施策 1-1 文学資源の調査・整理・可視化

市内に点在する文学資源を継続的に調査・整理し、データベースやマップ、冊子等により分かりやすく可視化します。また、ホームページ等を活用した情報発信を行い、市民や来訪者が大津の文学資源を知る機会の充実に取り組みます。

■推進する取組例

取組	内容
文学資源の調査・整理	大津にゆかりのある人物、作品、土地・場所などの文学資源について、継続的に調査・整理します。
文学資源のデータベース化	調査・整理した文学資源の情報を蓄積し、体系的に整理します。
文学資源マップの整備	市内に点在する文学資源を分かりやすく紹介するマップを整備します。
文学に関する冊子等の作成	大津ゆかりの文学や文学資源を紹介する冊子等を作成します。
文学情報の発信	ホームページや SNS 等による情報発信や、調査・整理した資源をテーマとした講座等を通じて、文学情報を分かりやすく発信します。

施策 1-2 文学資源を体験する機会の創出

文学資源をより身近に感じられるよう、文学散策やまち歩き、講座、イベント等を実施します。また、実際の場所を訪れ、学び、体験する機会を通じて、大津の文学資源への理解や関心を深めます。

■推進する取組例

取組	内容
文学散策・まち歩きの実施	大津ゆかりの文学資源を巡り、講師による解説を聞きながら、その魅力を知ることができる散策やまち歩きを実施します。
フィールドワークの実施	文学にゆかりのある場所を実際に訪れ、参加者が調査や観察、意見交換を行いながら、地域の文学資源の学びを深める機会を提供します。
文学講座の開催	大津ゆかりの文学や作家、文学資源などをテーマとした講座を開催します。
文学イベントの開催	文学に触れ、楽しむことができるイベントを開催し、文学資源に親しむ機会を創出します。

施策 2-1 子ども・若者が文学に親しむ機会の充実

子どもや若者が、読書や学習、体験などを通じて文学を身近に感じられる機会を充実します。また、学校や図書館等と連携し、文学に触れることから創作や発表へとつながる取組を進めます。

■推進する取組例

取組	内容
子どもの読書活動の推進	読み聞かせや読書活動などを通じて、子どもが本や文学に親しむ機会を充実します。
学校・図書館との連携	学校や図書館等と連携し、子どもや若者が継続的に文学に触れ、学ぶことができる環境づくりを進めます。
文学講座やフィールドワーク等による文学体験の充実	講座や現地での学習・体験を通じて、大津の文学や歴史文化に触れる機会を充実します。
作家等との交流機会の創出	作家等の話を聞いたり交流したりする機会を設け、文学や創作への関心を高めます。
創作・発表機会の充実	子どもや若者が自ら文章や作品を創作し、その成果を発表できる機会を充実します。

施策 2-2 創作活動・人材育成の推進

市民が文学を創作し、学び、発表する機会を充実するとともに、作家や編集者、大学等との交流・連携を通じて、文学活動に関わる人材の育成と活動の継続を支援します。

■推進する取組例

取組	内容
文学創作活動の支援	市民による文学作品の創作や継続的な活動を支援し、文学を表現する人の裾野を広げます。
創作講座・ワークショップの開催	幅広い世代が文学作品の創作や出版について学び、実践できる講座やワークショップを実施します。
作家・編集者等との交流機会の創出	作家や編集者等と交流し、創作や作品発表について学ぶことができる機会を創出します。
文学作品の発表機会の創出	市民が創作した作品を発表し、他者と共有・交流できる機会を充実します。
大学等との連携	大学等と連携し、知見や人材を生かした講座などの学びの機会を充実するとともに、文学活動や人材育成を進めます。

施策 3-1 多様な主体との連携・共創の推進

プレイヤーの育成や活動支援とともに、実行委員会による事業推進を通じて、多様な主体が継続的に「文学のまち大津」の取組に関わる環境づくりを進めます。

■推進する取組例

取組	内容
プレイヤーの育成・活動支援	文学に関わる活動や「文学のまち大津」の取組を担う人材や団体を育成し、活動や交流を促進するために支援を行います。
実行委員会による事業推進	多様な主体が連携して取り組むことが適した事業について、実行委員会形式で実施するとともに、新たな取組の検討・推進を行います。

施策 3-2 戦略的な情報発信とブランド力向上

大津の文学資源や文学に関する取組について、ホームページや SNS など様々な媒体を活用して市内外へ発信します。また、他分野の取組とも連携しながら、「文学のまち大津」の認知度や魅力を高め、文学を生かしたブランド形成を進めます。

■推進する取組例

取組	内容
ホームページ・SNS 等による情報発信	ホームページや SNS 等を活用し、文学資源やイベント、地域の活動などの情報を継続的に発信します。
SNS 等を活用した市民参加型の情報発信・交流	SNS 等を活用し、市民が「文学のまち大津」に関する情報発信に参加できる企画を通じて、文学を通じて交流できる機会を創出します。
国内外への魅力発信	国内外の関係都市や団体等との連携・交流の機会を活用し、大津の文学資源や取組の魅力を広く発信します。
ユネスコ創造都市ネットワーク加盟に向けた取組	文学分野でのユネスコ創造都市ネットワークへの加盟に向け、必要な取組や情報発信を進めます。
シティプロモーションとの連携	市のシティプロモーションと連携し、文学を大津の魅力の一つとして様々な取組を通じて発信します。
文学を活用したブランド形成	文学資源や文学活動を生かした取組を重ね、「文学のまち大津」としての認知と魅力の向上を図ります。

3 戦略の推進イメージ

目指す姿の実現に向けて、戦略期間を3つの段階に分け、すべての基本方針に基づく取組を継続的に進めながら、「基盤形成」から「共創・展開」、「定着・発展」へと段階的に重点を移し、市民や地域の主体的な活動が広がることを目指します。

(1) 第1段階 基盤形成（令和8～9年度）

○重点 基本方針①「触れる・知る」

市民	地域プレイヤー	大津市
・文学・郷土への理解 ・文学への関心の醸成	・関連事業への参画 ・人材交流・連携の促進	・文学資源の整理・可視化 ・プレイヤー育成・支援

(2) 第2段階 共創・展開（令和10～11年度）

○重点：基本方針②「学ぶ・深める」

市民	地域プレイヤー	大津市
・文学活動への参加・交流 ・地域に対する愛着深化	・共同プロジェクトの創出・拡充	・共創の推進 ・民間主体への支援

(3) 第3段階 定着・発展（令和12～13年度）

○重点：基本方針③「つながる・広がる」

市民	地域プレイヤー	大津市
・文学活動の主体・魅力発信 ・地域に対する愛着拡大	・自主的なプロジェクトの展開 ・新たな価値創出	・ブランド戦略 ・国内外への発信

第5章 戦略の推進にあたって

1 推進体制

「文学のまち大津」推進協議会のもと、「文学のまち大津」ブランディング戦略を推進します。
大津市・教育委員会による行政主体の取組と、市民・事業者・行政などで組織する「文学のまち大津」実行委員会（官民連携組織）による委員主体の取組を両輪とし、両者が連携しながら施策を展開します。

また、文学関係団体、学校・大学、出版社・書店、企業、市民活動団体など、多様な主体との連携を進め、それぞれの活動や強みを活かしながら、新たな取組や連携の創出につなげます。

2 進捗状況の確認

本戦略に基づく取組の実施状況を毎年度把握し、「文学のまち大津」推進協議会において進捗状況の確認や意見交換を行います。

また、取組の成果や課題を踏まえて内容を検討し、次年度以降の取組に反映することで、戦略を着実に推進します。

3 戦略の見直し

社会情勢の変化や取組の進捗状況、市民ニーズ等を踏まえ、計画期間中であっても、必要に応じて施策や取組の内容を見直し、社会の変化に柔軟に対応しながら戦略を推進します。

参考資料

1 戦略策定の経過

(1) 「文学のまち大津」推進協議会

会議	日程	議事
第1回	令和8年3月30日(月)	(1) 「文学のまち大津」の概要 (2) 基礎調査(大津の文学資源)結果 (3) 市民意識調査結果 (4) 戦略骨子の説明 (5) その他(イベント結果等)報告
第2回	令和8年7月17日(金)	(1) 第1回推進協議会の振り返り (2) 戦略骨子案の検討 (3) 質疑応答
第3回	令和8年10月9日(金)	(1) (2) (3)
第4回		

(2) 市民意識調査

調査名	「文学のまち大津」ブランディング戦略(仮称)策定に関する市民意識調査
調査対象	大津市内に居住する18歳以上の男女、3,000人
調査方法	郵送配布、郵送又はウェブアンケート(無記名)による回収
調査期間	大津市内に居住する18歳以上の男女、3,000人
回収数	1,196件
回収率	39.9%

(3) パブリックコメント

募集期間	
意見件数	

2 「文学のまち大津」推進協議会委員名簿

No.	氏名等	所属等
1	只友 景士	龍谷大学政策学部 教授（学識経験者）
2	加藤 賢治	成安造形大学 副学長
3	鷲尾 龍華	石山寺 座主
4	七里 源一	大津市文化連盟 理事（大津市俳句連盟会長）
5	福井 美知子	電車と青春 21 文字プロジェクト 代表
6	金子 博美	公益社団法人びわ湖大津観光協会 副会長
7	角間 利昭	株式会社しがぎん経済文化センター 文化事業部プロデューサー
8	今村 翔吾※	一般社団法人ホンミライ 理事長

※欠席時は、福永千夏氏（一般社団法人ホンミライ 理事）が代理出席

3 大津市の文学資源リスト

(1) 作品

番号	作品名	作者/編者	発表年	年代区分	部類	舞台
1	日本書紀	－	養老4(720)	古代	歴史書	建部大社
2	古事記	－	和銅5(712)	古代	歴史書	建部大社
3	懷風藻	－	天平勝宝3(751)	古代	漢詩集	大津京
4	万葉集	－	奈良時代	古代	和歌集	大津京 田上山
5	近江国風土記	－	奈良時代	古代	地理書	佐久奈度神社
6	文華秀麗集	－	弘仁9(818)	平安	漢詩集	唐崎・梵釈寺
7	日本後記	藤原緒嗣ら (編)	承和7(840)	平安	勅撰史書	崇徳寺
8	古今和歌集	紀友則、紀貫之、凡河内躬恒、壬生忠岑 (編)	延喜5(905)	平安	和歌集	志賀
9	後撰和歌集	大中臣能宣、清原元輔、源順、紀時文、坂上望城 (編)	天曆5(951)～	平安	和歌集	逢坂
10	蜻蛉日記	藤原道綱母	天延2(974)頃	平安	日記文学	石山・瀬田
11	往生要集	源信	寛和元(985)	平安	仏教書	横川恵心院
12	更級日記	菅原孝標女	康平2(1059)頃	平安	日記文学	逢坂・石山
13	大和物語	－	平安時代	平安	歌物語	志賀越
14	枕草子	清少納言	長保3(1001)頃	平安	随筆	逢坂
15	源氏物語	紫式部	平安時代	平安	小説	石山
16	田上集	源俊頼	平安時代	平安	和歌集	田上
17	和泉式部日記	和泉式部	寛弘5(1008)頃	平安	日記文学	石山
18	栄華物語	－	平安時代	平安	歴史物語	逢坂・関寺
19	今昔物語集	－	平安時代末期	平安	説話集	志賀・粟津
20	梁塵秘抄	後白河法皇 (編)	治承年間(1180前後)	平安	歌謡集	琵琶湖・比叡山
21	千載和歌集	藤原俊成(撰)	寿永2(1183)	平安	和歌集	長等
22	後拾遺和歌集	藤原通俊(撰)	応徳3(1086)	平安	和歌集	逢坂
23	金葉和歌集	源俊頼(撰)	天治元(1124)～	平安	和歌集	雄琴
24	玉葉	九条兼実	長寛2(1164)～正治2(1200)	平安-鎌倉	日記	比叡山
25	愚管抄	慈円	鎌倉初期	鎌倉	史論書	比叡山
26	平治物語	－	鎌倉時代	鎌倉	軍記物語	比叡山横川
27	平家物語	伝信濃前司行長	鎌倉時代	鎌倉	軍記物語	瀬田・粟津・義仲寺
28	宇治拾遺物語	－	鎌倉時代前期	鎌倉	説話集	大津京
29	新古今和歌集	源通具、藤原有家、藤原定家、藤原家隆、飛鳥井雅経、寂蓮 (撰)	元久2(1205)	鎌倉	和歌集	志賀・唐崎
30	方丈記	鴨長明	建暦2(1211)	鎌倉	随筆	石山
31	保元物語	－	鎌倉時代	鎌倉	軍記物語	坂本・比叡山
32	徒然草	兼好法師	鎌倉時代末期	鎌倉	随筆	三井寺
33	－	－	建長4(1252)	鎌倉	説話集	比叡山
34	古今著聞集	橘成季	建長6(1254)頃	鎌倉	説話集	逢坂

番号	作品名	作者/編者	発表年	年代区分	部類	舞台
35	石山寺縁起	—	正中年間（1324～26）頃	鎌倉	絵巻物	石山
36	比良山古人霊託	慶政	鎌倉時代	鎌倉	説話集	比良山
37	十六夜日記	阿仏尼	弘安 6（1283）頃	鎌倉	紀行文集	打出の浜
38	東関紀行	不明	鎌倉時代	鎌倉	紀行文集	逢坂・石山・ 打出浜・粟 津・瀬田
39	海道記	不明	鎌倉時代	鎌倉	紀行文集	小関越え
40	義経記	—	南北朝～室町初期	室町	軍記物語	大津
41	三井寺	世阿弥カ	室町時代	室町	能	三井寺
42	自然居士	観阿弥清次	室町時代	室町	能	大津
43	関寺小町・鸚鵡小町	世阿弥カ	室町時代	室町	能	逢坂
44	巴	—	室町時代	室町	能	粟津 義仲寺
45	太平記	—	室町時代	室町	軍記物語	三井寺・坂本
46	磁石	—	室町時代	室町	狂言	坂本
47	俵藤太物語	—	室町時代	室町	御伽草子	瀬田
48	源平盛衰記	—	14 世紀頃	室町	軍記物語 読 本	瀬田
49	舟弁慶	—	室町時代	室町	能楽	比叡山
50	秋夜長物語	不明	室町時代	室町	稚児物語	三井寺
51	源氏供養	—	—	室町	能楽	石山寺
52	甫庵信長記	小瀬甫庵	慶長 9（1604） 同 16（1611） 元和 8（1622）	江戸	仮名草子	瀬田 坂本
53	琵琶の海	居初津奈女	不明	江戸	奈良絵本	琵琶湖
54	竹斎物語	富山道治カ	元和 7（1621）～寛永 12 （1635）頃	江戸	仮名草子	三井寺
55	愛護の若	—	江戸時代	江戸	説教	唐崎
56	江州石山源氏供養	近松門座衛門	延宝 4（1676）	江戸	浄瑠璃	石山寺
57	日本永代蔵	井原西鶴	貞享 5（1688）	江戸	浮世草子	大津
58	好色一代男	井原西鶴	天和 2（1682）	江戸	浮世草子	大津 柴屋町
59	武士義理物語	井原西鶴	元禄元（1688）	江戸	浮世草子	田上 真光寺
60	幻住庵記	松尾芭蕉	元禄 3（1690）～	江戸	俳文集	石山 堅田 膳所
61	川角太閤記	川角三郎右衛門	江戸初期	江戸	軍記物語	坂本
62	明智軍記	—	江戸時代中期	江戸	軍記物語	西教寺 坂本
63	風俗文選	森川許六	宝永 3（1706）	江戸	俳文集	近江八景
64	傾城反魂香	近松門左衛門	宝永 5（1708）	江戸	歌舞伎・人形 浄瑠璃	大津
65	ひらかな盛衰記	文耕堂・三好松 洛・浅田可啓・ 竹田小出雲・千 前軒	元文 4（1739）初演	江戸	浄瑠璃	大津
66	諸国里人談	菊岡米山	寛保年間（1741～44）	江戸	雑書	大津
67	源平布引滝	並木千柳・三好 松洛	寛延 2（1749）初演	江戸	浄瑠璃	粟津・琵琶湖
68	雨月物語	上田秋成	安永 5（1777）	江戸	読本	長等
69	鎌倉三代記	近松半二・竹本 三郎兵衛・双木 千竹・吉田鬼眼	安永 10（1781）初演	江戸	浄瑠璃	絹川（衣川）
70	絵本太閤記	武内確斎	寛政 9（1797）	江戸	読本	坂本
71	諸國周遊奇談	昌東舎主人	文化 3（1806）	江戸	雑書	堅田
72	椿説弓張月	曲亭馬琴	文化 4（1807）	江戸	小説	荒川

番号	作品名	作者/編者	発表年	年代区分	部類	舞台
73	頼豪阿闍梨性鼠伝	曲亭馬琴	文化 5 (1808)	江戸	読本	三井寺
74	小桜姫風月奇観	山東京山	江戸後期	江戸	読本	石山寺
75	続膝栗毛	十返舎一九	文化 9 (1812)	江戸	小説	大津・膳所
76	三養雑記	山崎美成	天保 10 (1839)	江戸	随筆	大津
77	狂歌百物語	天明老人 (編)	嘉永 6 (1853)	江戸	狂歌絵本	三井寺
78	真書太閤記	栗原柳庵 編	嘉永 5 (1852) ~ 慶応年間	江戸	実録風読み物	雄琴 苗鹿
79	しゃくらの記	正岡子規	明治 23 (1890)	明治	紀行文	大津 石山 唐崎
80	石山寺へ「ハムレット」を納むるの辞	島崎藤村	明治 26 (1893)	明治	詩	石山
81	歌よみに与ふる書	正岡子規	明治 31 (1898)	明治	歌論集	比叡山
82	鮫人の恩返し	小泉八雲	明治 33 (1900)	明治	小説	瀬田
83	思ひ出の記	徳富蘆花	明治 33 (1902)	明治	小説	琵琶湖
84	興義和尚のはなし	小泉八雲	明治 34 (1901)	明治	小説	三井寺
85	叡山大師伝	仁忠	明治 35 (1902)	明治	伝記	比叡山
86	勇子	小泉八雲	明治 37 (1904)	明治	小説	大津
87	瓔珞品	泉鏡花	明治 38 (1905)	明治	小説	琵琶湖 石山
88	虞美人草	夏目漱石	明治 40 (1907)	明治	小説	比叡山
89	春	島崎藤村	明治 41 (1908)	明治	小説	石山
90	木曾義仲論 (東京府立第三中学校校友会誌)	芥川龍之介	明治 43 (1910)	明治	論文	義仲寺
91	近江八景の幻影	マックス・ダウ テンダイ	明治 44 (1911)	明治	小説	近江八景
92	眼鏡	島崎藤村	大正 02 (1913)	大正	童話	石山
93	新田左中将	笹川臨風	大正 02 (1913)	大正	歴史物語	堅田
94	佐々木高綱	岡本綺堂	大正 03 (1914)	大正	戯曲	石山寺
95	湖のほとり	田山花袋	大正 07 (1918)	大正	紀行文集	琵琶湖
96	二人の稚児	谷崎潤一郎	大正 07 (1918)	大正	小説	比叡山
97	Ancient Tales and Folklore of Japan 日本昔話民間説話集	Richard gordon smith	大正 07 (1918)	大正	説話集	膳所 坂本 小松 石山
98	湖光島影—琵琶湖めぐり—	近松秋江	大正 08 (1919)	大正	紀行文集	琵琶湖
99	比叡山	若山牧水	大正 08 (1919)	大正	紀行文集	比叡山
100	石山寺の秋の月	野口雨情	大正 09 (1920)	大正	童謡	石山寺
101	風流懺法	高浜虚子	大正 10 (1921)	大正	小説	比叡山 横川
102	物見遊山	岡本一平	大正 12 (1923)	大正	紀行文	三井寺 坂本
103	『一平傑作集』琵琶湖めぐり	岡本一平	大正 15 (1926)	大正	紀行文集	堅田
104	琵琶湖をめぐる	小杉放庵	昭和 06 (1931)	昭和	紀行文集	琵琶湖
105	陰影礼賛	谷崎潤一郎	昭和 08 (1933)	昭和	随想的評論	石山寺
106	琵琶湖	横光利一	昭和 10 (1935)	昭和	覚書	琵琶湖
107	金魚繚乱	岡本かの子	昭和 12 (1937)	昭和	小説	大津臨湖実験所
108	親鸞	吉川英治	昭和 13 (1938)	昭和	小説	比叡山
109	旅こそよけれ	近松秋江	昭和 14 (1939)	昭和	紀行文集	比叡山
110	力餅	島崎藤村	昭和 15 (1940)	昭和	童話	石山寺
111	砂がき	竹下夢二	昭和 15 (1940)	昭和	随筆	石山寺
112	親鸞	倉田百三	昭和 15 (1940)	昭和	小説	比叡山
113	日本婦道記 (尾花川)	山本周五郎	昭和 19 (1944)	昭和	小説	尾花川

番号	作品名	作者/編者	発表年	年代区分	部類	舞台
114	橋を渡る火 畠山勇子のこと	横光利一	昭和 19 (1944)	昭和	随筆	大津
115	京洛春秋	荻原井泉水	昭和 21 (1946)	昭和	句集	比叡山
116	犯人	太宰治	昭和 23 (1948)	昭和	小説	大津
117	洋燈	横光利一	昭和 23 (1948)	昭和	随筆	大津
118	乳野物語	谷崎潤一郎	昭和 26 (1951)	昭和	小説	千野・安養院
119	最澄と空海	長与善郎	昭和 28 (1953)	昭和	脚本	比叡山
120	志賀寺上人の恋	三島由紀夫	昭和 29 (1954)	昭和	小説	志賀寺
121	織田信長	山岡荘八	昭和 30 (1955)～35	昭和	小説	—
122	七つ街道〈近江路—飛諾洛薩先生—〉	井伏鱒二	昭和 31 (1956)	昭和	紀行文集	三井寺
123	竹の子抄	今東光	昭和 32 (1957)	昭和	小説	比叡山
124	新平家物語	吉川英治	昭和 32 (1957)	昭和	小説	堅田 比叡
125	春泥尼抄	今東光	昭和 32 (1957)	昭和	小説	比叡山
126	山椒魚	今東光	昭和 33 (1948)	昭和	小説	坂本・比叡山
127	比叡山	北川冬彦	昭和 33 (1958)	昭和	詩	比叡山
128	大坂城物語	村上元三	昭和 34 (1959)	昭和	歴史物語	比叡山
129	異形の群	葉山修平	昭和 34 (1959)	昭和	小説	比叡山
130	詩集 北国	井上靖	昭和 35 (1960)	昭和	詩集	湖西地域
131	親鸞とその妻	丹羽文雄	昭和 35 (1960)	昭和	小説	比叡山
132	京都歳時記	吉井勇	昭和 36 (1961)	昭和	随筆	比叡山
133	凶徒津田三蔵	藤枝静男	昭和 36 (1961)	昭和	小説	大津
134	憂愁平野	井上靖	昭和 37 (1962)	昭和	小説	比叡山
135	源氏供養	三島由紀夫	昭和 37 (1962)	昭和	戯曲	石山寺
136	絹と明察	三島由紀夫	昭和 39 (1964)	昭和	小説	堅田
137	関ヶ原	司馬遼太郎	昭和 39 (1964)	昭和	小説	大津城 和田神社
138	美しさと哀しみと	川端康成	昭和 40 (1965)	昭和	小説	大津
139	湖笛	水上勉	昭和 41 (1966)	昭和	小説	大津
140	夜の声	井上靖	昭和 43 (1968)	昭和	小説	湖西地域
141	額田女王	井上靖	昭和 44 (1969)	昭和	小説	大津京
142	秘色	秦恒平	昭和 45 (1970)	昭和	小説	大津京
143	大津恋坂物語	加堂秀三	昭和 45 (1971)	昭和	小説	大津
144	かくれ里	白洲正子	昭和 46 (1971)	昭和	随筆	葛川
145	ぼてじゃこ物語	花登筐	昭和 46 (1971)	昭和	脚本	—
146	街道をゆく	司馬遼太郎	昭和 46 (1971) ～	昭和	紀行文集	北小松、比叡山
147	星と祭	井上靖	昭和 46 (1972)	昭和	小説	坂本
148	みごもりの湖	秦恒平	昭和 49 (1974)	昭和	小説	琵琶湖
149	比良のシャクナゲ	井上靖	昭和 49 (1974)	昭和	小説	堅田
150	近江山河抄	白洲正子	昭和 49 (1974)	昭和	随筆	逢坂 石山
151	西国巡礼	白洲正子	昭和 49 (1974)	昭和	随筆	三井寺 石山
152	一步の距離	城山三郎	昭和 49 (1975)	昭和	小説	大津
153	細川ガラシャ夫人	三浦綾子	昭和 50 (1975)	昭和	小説	坂本 西教寺
154	一休	水上勉	昭和 50 (1975)	昭和	小説	堅田
155	天の川の太陽	黒岩重吾	昭和 51 (1976)	昭和	歴史小説	瀬田
156	埋み火	杉本苑子	昭和 54 (1979)	昭和	小説	逢坂
157	比叡	瀬戸内晴美	昭和 54 (1979)	昭和	小説	比叡山
158	序の舞	宮尾登美子	昭和 56 (1981)	昭和	小説	坂本
159	一休さんの門	川口松太郎	昭和 59 (1984)	昭和	小説	堅田

番号	作品名	作者/編者	発表年	年代区分	部類	舞台
160	日輪の翼	中上健次	昭和 59 (1984)	昭和	小説	瀬田
161	伊庭貞剛物語	木本正次	昭和 61 (1986)	昭和	小説	石山
162	比叡を仰ぐ	藤本恵子	昭和 61 (1986)	昭和	小説	比叡山
163	雲と風と：伝教大師最澄の生涯	永井路子	昭和 62 (1987)	昭和	小説	比叡山
164	飾り火	連城三紀彦	平成元 (1989)	平成	小説	大津
165	群青の湖	茨木好子	平成 02 (1990)	平成	小説	大津
166	クレソン	藤本恵子	平成 02 (1990)	平成	小説	湖西
167	琵琶湖周航殺人歌	内田康夫	平成 04 (1992)	平成	推理小説	大津
168	ニコライ遭難	吉村昭	平成 05 (1993)	平成	小説	大津
169	比良の水底	澤田ふじ子	平成 06 (1994)	平成	小説	葛川
170	喪失記	姫野力オルコ	平成 09(1997)	平成	小説	—
171	小説内藤丈草	童門冬二	平成 09(1997)	平成	歴史小説	大津
172	天を睨む	斎城昌美	平成 09(1997)	平成	歴史小説	堅田
173	蓮如	五木寛之	平成 10 (1998)	平成	戯曲	堅田
174	カブキの日	小林恭二	平成 10 (1998)	平成	小説	堅田
175	奥の細道温泉紀行	嵐山光三郎	平成 11 (1999)	平成	随筆	義仲寺
176	湖賊の風	高橋直樹	平成 13 (2001)	平成	小説	比叡山
177	信長燃ゆ	安部龍太郎	平成 13 (2001)	平成	小説	坂本
178	家守奇譚	梨木香歩	平成 16 (2004)	平成	小説	—
179	エスケイプ/アブセント	絲山秋子	平成 18 (2006)	平成	小説	—
180	惜春	花村萬月	平成 18 (2006)	平成	小説	雄琴
181	孤高のメス—外科医当麻鉄彦	大鐘稔彦	平成 19 (2007)	平成	小説	—
182	ちはやふる	末次由紀	平成 19 (2007)	平成	漫画	近江神宮
183	びわ湖環状線に死す	西村京太郎	平成 20 (2008)	平成	推理小説	琵琶湖
184	悪党芭蕉	嵐山光三郎	平成 20 (2008)	平成	小説	義仲寺
185	楽浪の沖に—明智家と堅田湖賊	米津彬介	平成 21 (2009)	平成	歴史小説	堅田
186	曇天に笑う	唐々煙	平成 23 (2011)	平成	漫画	—
187	ECHOES—木霊	辻仁成	平成 23 (2011)	平成	随筆	比叡山
188	剣豪将軍義輝	宮本昌孝	平成 23 (2011) ～	平成	小説	坂本
189	びわこ由美浜殺人事件	中津文彦	平成 24 (2012)	平成	小説	由美浜
190	湖猫、波を奔る	弟子吉治郎	平成 24 (2012)	平成	小説	坂本
191	湖西線 12×4 の謎	西村京太郎	平成 26 (2014)	平成	推理小説	
192	十津川警部 我が屍に旗を立てよ	西村京太郎	平成 27 (2015)	平成	推理小説	大津
193	駅鈴（はゆまのすず）	久保田香里	平成 28 (2016)	平成	児童文学	逢坂
194	瀬田の唐橋殺人事件	大谷羊太郎	平成 29 (2017)	平成	推理小説	瀬田
195	ピワイチ	横山充男	平成 30 (2018)	平成	児童文学	琵琶湖
196	名物かき氷！復活大作戦	草香恭子	令和 3 (2021)	令和	児童文学	建部大社
197	塞王の楯	今村翔吾	令和 3 (2021)	令和	小説	大津・穴太
198	茜唄	今村翔吾	令和 5 (2023)	令和	小説	三井寺
199	成瀬は天下を取りにいく	宮島未奈	令和 5 (2023)	令和	連作短編集	大津
200	成瀬は信じた道をいく	宮島未奈	令和 6 (2024)	令和	連作短編集	大津

(2) 文学碑、歌碑、句碑、記念碑

番号	名前	作品名	所縁のある人物	分類	場所
1	万葉集歌碑	『万葉集』	柿本人麻呂	歌碑	大津市御陵町 大津市役所 時計塔基部
2	万葉集歌碑	『万葉集』	大海人皇子（天武天皇）	歌碑	大津市皇子が丘大津駅駅前
3	万葉集歌碑	『万葉集』	柿本人麻呂	歌碑	大津市神宮町 1 - 2 （近江神宮、近江時計眼鏡飽食専門学校前）
4	万葉集歌碑	『万葉集』	高市黒人	歌碑	大津市神宮町 1 - 2 （近江神宮）
5	万葉集歌碑	『万葉集』	柿本人麻呂	歌碑	大津市錦織 2 丁目 大津京シンボル緑地
6	万葉集歌碑	『万葉集』	藤原鎌足	歌碑	大津市錦織 2 丁目 大津京シンボル緑地
7	万葉集歌碑	『万葉集』	額田王	歌碑	大津市錦織 2 丁目 大津京シンボル緑地
8	万葉集歌碑	『万葉集』	柿本人麻呂	歌碑	大津市錦織 2 丁目 大津京跡
9	万葉集歌碑	『万葉集』	柿本人麻呂	歌碑	大津市唐崎 1 丁目 唐崎苑
10	万葉集歌碑	『万葉集』	柿本人麻呂	歌碑	大津市柳が崎 5 - 35 （びわ湖文化館）
11	万葉集歌碑	『万葉集』	役民	歌碑	大津市田上枝町田上公園「砂防百年」記念碑側面
12	万葉集歌碑	『万葉集』	槐本	歌碑	大津市和邇南浜和邇川左岸河口
13	万葉集歌碑	『万葉集』	槐本	歌碑	大津市南小松ホテルオオツカ前湖畔
14	万葉集歌碑	『万葉集』	柿本人麻呂	歌碑	大津市南小松雄松崎湖岸
15	三浦義一歌碑	—	三浦義一	歌碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 （義仲寺）
16	中西悟堂歌碑	—	中西悟堂	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺西塔恵亮堂前）
17	米田雄郎歌碑	—	米田雄郎	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺西塔にない堂南）
18	九条武子歌碑	—	九条武子	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺西塔釈迦堂前）
19	吉井勇歌碑	—	吉井勇	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺東塔阿弥陀堂前）
20	宮沢賢治歌碑	—	宮沢賢治	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺東塔根本中堂前）
21	保田 與重郎歌碑	—	保田 與重郎	歌碑	大津市神宮町 1 - 2 （近江神宮）
22	三品千鶴歌碑	—	三品千鶴	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺横川元三大師堂前）
23	水原秋桜子歌碑	—	水原秋桜子	歌碑	大津市御陵町 2 - 3 （大津市市民文化会館庭）
24	平田一翁（貫一）歌碑	—	平田一翁（宮司）	歌碑	大津市神宮町 1 - 2 （近江神宮社務所前）
25	横井時常歌碑	—	横井時常（宮司）	歌碑	大津市神宮町 1 - 2 （近江神宮社務所前）
26	平忠度歌碑	—	平忠度	歌碑	大津市小関町 1 番街区 （長等公園）
27	小町塚歌碑	—	小野小町	歌碑	大津市逢坂 1 丁目 15-6 （関蟬丸神社下社）
28	琵琶湖周航歌碑	—	—	歌碑	大津市観音寺 1 - 6
29	吉井勇歌碑	—	吉井勇	歌碑	大津市打出浜 1 - 1 （琵琶湖文化館）
30	八木英光ほか歌碑	—	八木英光	歌碑	大津市仰木 4 丁目 38 - 55 （小椋神社）
31	塚本平治歌碑	—	塚本平治	歌碑	大津市仰木 4 丁目 38 - 55 （小椋神社）
32	三浦義一歌碑	—	三浦義一	歌碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 （義仲寺）
33	伊藤雪雄歌碑	—	伊藤雪雄（初代滋賀県歌人協会代表）	歌碑	大津市本丸町 7 （膳所城跡公園）
34	飯田棹水（菅次郎）歌碑	—	飯田棹水	歌碑	大津市本丸町 7 （膳所城跡公園）
35	志賀迺家淡海歌碑	—	志賀迺家淡海	歌碑	大津市本堅田 1 丁目 22-30 （本福寺）
36	中尾吸江句碑	—	中尾吸江	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺横川元三大師堂前）
37	中本紫公句碑	—	中本紫公（「花藻」創刊）	歌碑	大津市坂本本町 4220 （延暦寺東塔文殊楼前）
38	岡本杏路句碑	—	岡本杏路	歌碑	大津市坂本本町 4220 （比叡山ケーブル延暦寺駅前）

番号	名前	作品名	所縁のある人物	分類	場所
39	慈鎮和尚歌碑	『愚管抄』	慈円	歌碑	大津市坂本本町 4220 (延暦寺東塔文殊楼前)
40	川村多実二歌碑	—	川村多実二	歌碑	大津市坂本本町 4220 (延暦寺西塔釈迦堂前)
41	平井乙磨歌碑	—	平井乙磨	歌碑	大津市坂本本町 4220 (延暦寺横川秘宝館前)
42	木下碧露歌碑	—	木下碧露	歌碑	大津市茶が崎 4-3 (料亭紅葉 閉業)
43	今堀勘右衛門歌碑	—	今堀勘右衛門	歌碑	大津市三井寺町 4-1 (長等神社)
44	平忠度歌碑	—	平忠度	歌碑	大津市三井寺町 4-1 (長等神社)
45	加藤知多雄歌碑	—	加藤知多雄	歌碑	大津市園城寺町 246 (法明院)
46	松田夕渚歌碑	—	松田夕渚	歌碑	大津市大萱 1 丁目 6 番街区 (西野墓地)
47	大萱戦争未亡人会歌碑	—	—	歌碑	大津市大萱 1 丁目 6 番街区 (西野墓地)
48	松田夕渚(源祐) 歌碑	—	松田夕渚	歌碑	大津市大萱 2 丁目 21-1 (萱野神社)
49	伝教大師歌碑	—	最澄	歌碑	大津市坂本本町 4220 (延暦寺東塔出世大黒天堂前)
50	藤原定家歌碑	—	藤原定家	歌碑	大津市坂本本町 4239 (安楽率院)
51	天智天皇歌碑	—	天智天皇	歌碑	大津市神宮町 1-2 (近江神宮社務所前)
52	上田上郷歌の碑	—	—	歌碑	大津市上田上平野町 (上田上小学)
53	滋賀県民の歌の碑	—	—	歌碑	大津市京町三丁目 1 (滋賀会館前)
54	池坊専正歌碑	—	池坊専正	歌碑	大津市京町一丁目 1 (栄泉寺)
55	木下碧露歌碑	—	木下碧露	歌碑	大津市茶が崎 4-3 (料亭紅葉 閉業)
56	歌碑(詠者不詳)	—	—	歌碑	大津市唐崎 1-7-1 (唐崎神社)
57	小野篁歌碑	—	小野篁	歌碑	大津市小野 1961 (小野篁神社)
58	行尊歌碑	—	行尊	歌碑	大津市園城寺町 33 (円満院)
59	清少納言歌碑	—	清少納言	歌碑	大津市逢坂
60	蟬丸歌碑	—	蟬丸	歌碑	大津市逢坂
61	三条右大臣歌碑	—	三条右大臣	歌碑	大津市逢坂
62	香川進歌碑	—	香川進	歌碑	大津市神宮町 1-2 (近江神宮)
63	山村金三郎歌碑	—	山村金三郎	歌碑	大津市神宮町 1-2 (近江神宮)
64	数が真木子歌碑	—	数が真木子	歌碑	大津市神宮町 1-2 (近江神宮)
65	大友皇子歌碑	—	大友皇子	歌碑	大津市神宮町 1-2 (近江神宮)
66	露国皇太子遭難地の碑	『ニコライ遭難』	ニコライ二世	記念碑	大津市京町 2 丁目 2-11
67	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
68	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
69	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市御殿浜琵琶湖畔
70	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市中庄一丁目 (戒琳庵)
71	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市大谷町 27-9 (月心寺)
72	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市園城寺町 33 (円満院)
73	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市園城寺町 33 (円満院)
74	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市園城寺町 246 (園城寺(三井寺))
75	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市石山寺 1 丁目 1-1 (石山寺)
76	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市国分 2 丁目 5 (近津尾神社境内 幻住庵跡)
77	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市本堅田 1 丁目 16-18 (浮御堂)
78	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市本堅田 1 丁目 16-18 (浮御堂)
79	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市本堅田 1 丁目 22-30 (本福寺)
80	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市神宮町 1-2 (近江神宮、近江時計眼鏡飽食専門学校前)
81	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市唐崎 1-7-1 (唐崎神社)
82	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市坂本 4 丁目 6-1 (滋賀院)
83	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市小関町 7-5 (小関天満宮)
84	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)
85	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市坂本 5 丁目 13-1 (西教寺)
86	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市下阪本 6 町 m2-8 (新唐崎公園)

番号	名前	作品名	所縁のある人物	分類	場所
87	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市京町 3 丁目 3-36 (天孫神社南側)
88	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
89	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市馬場 1 丁目 8 馬場児童公園
90	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市石山寺 1 丁目 1-1 (石山寺)
91	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市瀬田 1 丁目 27 (唐橋公園)
92	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市本丸町 7 (膳所城跡公園)
93	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市竜が丘 25-18 竜が丘山の手児童遊園地
94	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市御殿浜 23 湖岸なぎさ公園
95	芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市本堅田 2 丁目 13-13 (堅田漁港)
96	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市本堅田 1 丁目 27-20 (祥瑞寺)
97	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市石山内畑町 82 (岩間寺)
98	松尾芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市馬場 2 丁目 11-8 膳所駅
99	伊勢又玄句碑	—	島崎又玄 (蕉門)	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
100	高浜虚子句碑	—	高浜虚子	句碑	大津市本堅田 1 丁目 16-18 (浮御堂)
101	高浜虚子句碑	—	高浜虚子	句碑	大津市今堅田 3 丁目 25 (真野浜水泳場)
102	高浜虚子句碑	—	高浜虚子	句碑	大津市大谷町 27-9 (月心寺)
103	虚子の塔・高浜虚子句碑	—	高浜虚子	句碑	大津市坂本本町 4220 (延暦寺横川虚子の塔)
104	栃翁句碑	—	栃翁	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
105	瀬川露城句碑	—	瀬川露城 (義仲寺 無名庵 15 世)	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
106	岡田魯人句碑	—	岡田魯人 (義仲寺 無名庵 14 世)	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
107	富岡乙也句碑	—	富岡乙也 (義仲寺 無名庵 12 世)	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
108	飯田青水句碑	—	飯田青水	句碑	大津市仰木 4 丁目 2-50 (御所の山)
109	瀬川露城句碑	—	瀬川露城 (義仲寺 無名庵 15 世)	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
110	藤本映湖句碑	—	藤本映湖 (花藻の主宰者)	句碑	大津市御陵町 2-3 (大津市市民文化会館庭)
111	高浜年尾句碑	—	高浜年尾	句碑	大津市茶が崎 4-3 (料亭紅葉 閉業)
112	北川文素句碑	—	北川文素	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
113	山本紫金句碑	—	山本紫金	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
114	豊島朴因 (純平) 句碑	—	豊島朴因	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
115	松浦羽州句碑	—	松浦羽州	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
116	西尾其桃句碑	—	西尾其桃	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
117	織田車友句碑	—	織田車友	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
118	寺崎方堂句碑	—	寺崎方堂 (無名庵十八世)	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
119	睡花堂蝶夢句碑	—	睡花堂蝶夢	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
120	矢島蟻洞句碑	—	矢島蟻洞	句碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
121	小林華明句碑	—	小林華明	句碑	大津市仰木 4 丁目 2-50 (御所の山)
122	武内樸人句碑	—	武内樸人	句碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)
123	芭蕉道統歴代句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)
124	谷口如水 (久次郎) 句碑	—	谷口久次郎 俳号：如水 (正風 19 世)	句碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)
125	寺崎方堂句碑	—	寺崎方堂 (無名庵十八世)	句碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)
126	正風合同句碑	—	—	句碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)
127	美濃豊月句碑	—	美濃豊月	句碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)

番号	名前	作品名	所縁のある人物	分類	場所
128	田中居庸(吉太郎)句碑	—	田中居庸(吉太郎)	句碑	大津市国分2丁目5 (近津尾神社境内 幻住庵跡)
129	山元春挙句碑	—	山元春挙	句碑	大津中庄1丁目19-23 (記恩寺)
130	美濃豊月句碑	—	美濃豊月	句碑	大津市国分2丁目5 (近津尾神社境内 幻住庵跡)
131	藤川洞里(芳太郎)句碑	—	藤川洞里(芳太郎)	句碑	大津市国分2丁目5 (近津尾神社境内 幻住庵跡)
132	寺崎方堂句碑	—	寺崎方堂(無名庵十八世)	句碑	大津市国分2丁目5 (近津尾神社境内 幻住庵跡)
133	奥村里翁(佐治郎)句碑	—	奥村里翁(佐治郎)	句碑	大津市国分2丁目5 (近津尾神社境内 幻住庵跡)
134	句碑(作者不詳)	—	—	句碑	大津市晴嵐2丁目 (今井兼平墓)
135	久米幸叢句碑	—	久米幸叢	句碑	大津市唐橋町23番
136	山崎茶酔句碑	—	山崎茶酔	句碑	大津市瀬田2丁目1番
137	吐月句碑	—	吐月(錦織良夫)	句碑	大津市本堅田1丁目22-30 (本福寺)
138	大谷句仏句碑	—	大谷光演	句碑	大津市本堅田1丁目22-30 (本福寺)
139	淡海辞世の句碑	—	志賀迺家淡海	句碑	大津市本堅田1丁目22-30 (本福寺)
140	松村雲外句碑	—	松村雲外	句碑	大津市石山寺1丁目1-1 (石山寺)
141	三上千那句碑	—	千那(11世住職)	句碑	大津市本堅田1丁目22-30 (本福寺)
142	豊田白揚(条造)句碑	—	豊田白揚(条造)	句碑	大津市大石東1丁目 (法楽寺)
143	阿波野青畝句碑	—	阿波野青畝	句碑	大津市本堅田1丁目16-18 (浮御堂)
144	高桑蘭更句碑	—	高桑蘭更	句碑	大津市本堅田1丁目16-18 (浮御堂)
145	中井余花朗句碑	—	中井余花朗(虚子門人 浪乃音酒造蔵元)	句碑	大津市本堅田1丁目16-18 (浮御堂)
146	谷口如水(久次郎)句碑	—	谷口久次郎 俳号:如水(正風19世)	句碑	大津市堅田3丁目1-1 琵琶湖大橋米 ^ラ ザ / 今堅田三丁目1 (琵琶湖大橋レストハウス) 富士宮神社
147	得所句碑	—	佐瀬得所カ	句碑	大津市本堅田1丁目16-18 (浮御堂)
148	米沢吾亦紅句碑	—	米沢吾亦紅	句碑	大津市坂本本町4220 (延暦寺横川秘宝館前)
149	浜中柑児句碑	—	浜中柑児	句碑	大津市唐崎1-7-1 (唐崎神社)
150	桂樟蹊子句碑	—	桂樟蹊子	句碑	大津市神宮町1-2 (近江神宮)
151	一指句碑	—	一指	句碑	大津市御陵町2-3 (大津市市民文化会館庭)
152	鈴鹿野風呂句碑	—	鈴鹿野風呂	句碑	大津市御陵町2-3 (大津市市民文化会館庭)
153	井上士郎句碑	—	井上士郎	句碑	大津市園城寺町246 (園城寺(三井寺))
154	石翁・宮秀句碑	—	石翁・宮秀	句碑	大津市小関町7-5 (小関天満宮)
155	西川峡陽(太郎)句碑	—	西川峡陽	句碑	大津市音羽台1-12 (高山寺霊園)
156	菅沼曲翠・破鏡尼句碑	—	菅沼曲翠・破鏡尼(蕉門)	句碑	大津市秋葉台35 (芭蕉会館)
157	建部木人他句碑	—	建部木人	句碑	大津市神領1丁目16-1 (建部大社)
158	松田夕渚句碑	—	松田夕渚	句碑	大津市大萱1丁目6番街区 (西野墓地)
159	久保萱堂句碑	—	久保萱堂	句碑	大津市大萱2丁目21-1 (萱野神社)
160	芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市枝3-3 (田上公園前)
161	正岡子規句碑	—	正岡子規	句碑	大津市逢坂1丁目15-6 (閑蟬丸神社下社)
162	木下はぎ江句碑	—	木下はぎ江	句碑	大津市茶が崎4-3 (料亭紅葉 閉業)
163	佐治誠吉句碑	—	佐治誠吉(大津市長)	句碑	大津市春日町1-2 大津駅
164	芭蕉句碑	—	松尾芭蕉	句碑	大津市黒津4丁目4-1 (南郷水産センター)
165	鈴鹿野風呂句碑	—	鈴鹿野風呂	句碑	大津市茶が崎4-3 (料亭紅葉 閉業)
166	伊藤香舟女句碑	—	伊藤香舟女	句碑	大津市神宮町1-2 (近江神宮)
167	小野小町供養塔	—	小野小町	供養塔	大津市小野1961 (小野神社)
168	壬申の乱史跡顕彰碑	—	三条西実枝 大友皇子	顕彰碑	大津市秋葉台34番街区 (秋葉神社)

番号	名前	作品名	所縁のある人物	分類	場所
169	正風顕彰碑	—	美濃豊月	顕彰碑	大津市秋葉台 35 (芭蕉会館)
170	幻住庵旧跡の碑	『平家物語』	今井兼平	顕彰碑	大津市晴嵐 2 丁目 (今井兼平墓)
171	逢坂山関址碑	『後撰和歌集』等	蟬丸、清少納言	史跡/石碑	大津市逢坂
172	坂本城址の碑	『川角太閤記』等	明智光秀	史跡/石碑	大津市下坂本 (坂本城)
173	龍ヶ岡俳人墓地	—	内藤文草、各務支考等	史跡/石碑	大津市馬場 2 丁目 12 (龍ヶ岡俳人墓地)
174	大津城跡碑	『塞王の楯』	京極高次	史跡/石碑	大津市浜大津 5 丁目 2-29 (大津城)
175	柳緑花紅詩碑	—	—	詩碑	大津市打出浜
176	杉浦重剛詩碑	—	杉浦重剛	詩碑	大津市杉浦町 12 - 11 杉浦重剛旧宅
177	元田永孚詩碑	—	元田永孚	詩碑	大津市晴嵐 2 丁目 (今井兼平墓)
178	西沢十七詩碑	—	西沢十七	詩碑	大津市唐橋町 23 番
179	島崎藤村詩碑	—	島崎藤村	詩碑	大津市石山寺 1 丁目 1-1 (石山寺)
180	沢庵和尚詩碑	—	沢庵	詩碑	大津市坂本 5 丁目 13-1 (西教寺)
181	明智左馬之介湖水渡りの碑	—	明智光秀	石碑	大津市打出浜 1 - 1 (琵琶湖文化館)
182	菅沼曲翠邸跡碑	—	菅沼曲翠 (蕉門)	石碑	大津市中庄 1 丁目 5 番
183	今井兼平鎧掛松の碑	『平家物語』	今井兼平	石碑	大津市園山 1 丁目 1-1(東滋賀事業場)
184	三翁碑	—	松尾芭蕉 千那 (11 世住職) 角上 (12 世住職)	石碑	大津市本堅田 1 丁目 22-30 (本福寺)
185	真野の入江跡碑	—	源俊頼	石碑	大津市真野 4 丁目 18 - 2
186	裳立山(紀貫之)の碑	—	紀貫之	石碑	大津市坂本本町 4220 (延暦寺)
187	奥野椰子夫生誕地碑	—	奥野椰子夫	石碑	大津市本堅田 2 丁目 13 - 13 (堅田漁港)
188	淡海節の碑	—	—	石碑	大津市本堅田 2 丁目 1-2
189	花登筐生誕之地碑	—	花登筐	石碑	大津市長等 1 丁目 3-24
190	木曾義仲遺跡の碑	『平家物語』	源義仲	石碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
191	堅田十六夜の弁碑	—	松尾芭蕉	石碑	大津市本堅田 1 丁目 18 - 18
192	志賀廼家淡海誕生地の碑	—	志賀廼家淡海	石碑	大津市本堅田一丁目 1 (いせや旅館)
193	海鷲の碑	『予科練一步の距離』	城山三郎	石碑	大津市際川一丁目 1 (自衛隊大津駐屯地)
194	明智左馬之助駒止の松の碑	—	明智左馬之助	石碑	大津市柳が崎 8
195	明智左馬之助駒止の松の碑	—	明智左馬之助	石碑	大津市柳が崎 8
196	新羅三郎義光の碑	—	源義光	石碑	大津市園城寺町 (新羅善神堂)
197	史跡皇子山古墳の碑	—	大友皇子	石碑	大津市御陵町 3 - 1
198	若鷲の碑	『予科練一步の距離』	城山三郎	石碑	大津市御陵町 2 - 3 (大津市市民文化会館庭)
199	逢坂関址碑	—	蟬丸	石碑	大津市逢坂
200	芭蕉翁行状碑	—	松尾芭蕉	石碑	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
201	仏幻庵跡の碑	—	松尾芭蕉	石碑	大津市馬場 2 丁目 12 (龍ヶ岡俳人墓地)
202	花登筐文学碑	—	花登筐	文学碑	大津市島の関 14 - 14
203	湖族の郷文学碑	『一平傑作集』	岡本一平	文学碑	大津市本堅田 1 丁目 22-30 (光徳寺)
204	湖族の郷文学碑	『絹と明察』	三島由紀夫	文学碑	大津市本堅田 2 丁目 1 番
205	西鶴の文学碑	—	井原西鶴	文学碑	大津市 1 丁目 8-32 (真光寺)
206	湖族の郷文学碑	『予科練一步の距離』	城山三郎	文学碑	大津市本堅田 1 丁目 16-18 (浮御堂)
207	沢野井家由緒碑	—	沢野井家(関蟬丸神社奉仕家)	由緒碑	大津市逢坂 1 丁目 20 (関蟬丸神社上社)
208	蟬丸神社由緒碑	—	蟬丸	由緒碑	大津市大谷町 23-11 (蟬丸神社)

(3) 寺院・神社・史跡等

番号	名前	作品名	所縁のある人物	分類	場所
1	梵釈寺	『文華秀麗集』	桓武天皇、嵯峨天皇	寺院	—
2	崇福寺	『今昔物語』	天智天皇	寺院	大津市滋賀里 1 丁目 (崇福寺)
3	月心寺	『枕草子』『蜻蛉日記』等	小野小町 清少納言、蟬丸、松尾芭蕉	寺院	大津市大谷町 27-9 (月心寺)

番号	名前	作品名	所縁のある人物	分類	場所
4	延暦寺	『今昔物語』等	最澄	寺院	大津市坂本本町 4220 (延暦寺)
5	岩間寺	—	松尾芭蕉	寺院	大津市石山内畑町 82 (岩間寺)
6	石山寺	『源氏物語』『蜻蛉日記』『更級日記』『枕草子』等	紫式部 与謝野鉄幹・晶子 松尾芭蕉	寺院	大津市石山寺 1 丁目 1-1 (石山寺)
7	園城寺 (三井寺)	『平家物語』『太平記』等	円珍	寺院	大津市園城寺町 246 (園城寺 (三井寺))
8	西教寺	『細川ガラシャ夫人』	源信、明智光秀	寺院	大津市坂本 5 丁目 13-1 (西教寺)
9	満月寺浮御堂	—	源信、松尾芭蕉	寺院	大津市本堅田 1 丁目 16-18 (浮御堂)
10	本福寺	—	蓮如 松尾芭蕉 千那	寺院	大津市本堅田 1 丁目 22-30 (本福寺)
11	義仲寺	『平家物語』	源義仲、松尾芭蕉等	寺院	大津市馬場 1 丁目 5-12 (義仲寺)
12	恵心院	『往生要集』『今昔物語』	源信	寺院	大津市川坂本本町 4225 (恵心院)
13	祥瑞寺	『一休』	一休 松尾芭蕉	寺院	大津市本堅田 1-27-20 (祥瑞寺)
14	明王院	『梁塵秘抄』	—	寺院	大津市葛川坊村町 155 (明王院)
15	近松寺	—	近松門左衛門	寺院	大津市逢坂 2 丁目 11-8 (近松寺)
16	法明院	『七つ街道 (近江路—飛諾洛薩先生—)』	フェノロサ	寺院	大津市園城寺町 246 (法明院)
17	新羅善神堂	『古今著聞集』	源義光	寺院	大津市園城寺町 (新羅善神堂)
18	無動寺	—	西行	寺院	
19	田上山	『万葉集』	—	史跡	大津市田上森町
20	近江大津宮	『万葉集』	天智天皇 大友皇子	史跡	大津市錦織 2 丁目 大津京跡
21	瀬田橋	『日本書紀』『平家物語』	藤原秀郷	史跡	大津市瀬田 27
22	今井兼平墓	『平家物語』	源義仲、今井兼平	史跡	大津市晴嵐 2 丁目 (今井兼平墓)
23	幻住庵	『幻住庵記』	松尾芭蕉	史跡	大津市国分 2 丁目 5 (近津尾神社境内幻住庵跡)
24	戒琳庵	—	松尾芭蕉	史跡	大津市中庄一丁目 (戒琳庵)
25	其角亭跡	—	室井其角	史跡	大津市本堅田 1-22-26 (其角亭跡)
26	藤原定家の爪塚	—	藤原定家	史跡	大津市坂本本町 4239 (安楽率院)
27	とくとくの泉	『幻住庵記』	松尾芭蕉	史跡	大津市国分 2 丁目 5 (近津尾神社境内幻住庵跡)
28	紀貫之墓	—	紀貫之	史跡	大津市坂本本町 4220 (延暦寺)
29	弘文天皇 長等山前陵	—	大友皇子	史跡	大津市御陵町 3-1
30	新羅三郎義光の墓	『古今著聞集』	源義光	史跡	大津市園城寺町 (新羅善神堂)
31	初代琵琶湖ホテル (びわ湖大津館)	—	志賀直哉, 三島由紀夫等	史跡	大津市柳が崎 5-35 (びわ湖文化館)
32	檜ノ木原と西行屋敷跡	—	西行	史跡	大津市大江 4 丁目 2-1
33	遵義堂跡	—	黒田麴廬 (行次郎) 関藍梁	史跡	大津市膳所 2 丁目 1 1-1 (膳所高等学校)
34	近江神宮	『万葉集』	天智天皇	神社	大津市神宮町 1-2 (近江神宮)
35	建部大社	『日本書紀』『古事記』	ヤマトタケル	神社	大津市神領 1 丁目 16-1 (建部大社)
36	関蟬丸神社上社	—	蟬丸	神社	大津市逢坂 1 丁目 20 (関蟬丸神社上社)
37	関蟬丸神社下社	—	蟬丸	神社	大津市逢坂 1 丁目 15-6 (関蟬丸神社下社)
38	蟬丸神社	—	蟬丸	神社	大津市大谷町 23-11 (蟬丸神社)
39	小野神社	—	小野氏	神社	大津市小野 1961 (小野神社)
40	小野篁神社	—	小野篁	神社	大津市小野 1961 (小野篁神社)
41	小野道風神社	—	小野道風	神社	大津市小野 1222 (小野道風神社)
42	日吉大社	『太平記』等	—	神社	大津市坂本 5 丁目 1-1 (日吉大社)
43	近津尾神社	『幻住庵記』	松尾芭蕉	神社	大津市国分 2 丁目 442 (近津尾神社)
44	唐崎神社	『太平記』等	松尾芭蕉	神社	大津市唐崎 1-7-1 (唐崎神社)

4 用語解説

用語	解説

裏表紙